

授業科目名： 音楽で広がる表現の世界	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金谷 めぐみ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえ、音楽に関する目標・内容について理解する。 ・小学校の音楽で学ぶ楽曲や器楽の基礎知識を理解する。 ・教科書に掲載されている楽曲等についての実践的な技術を身に付ける。 			
授業の概要			
音楽の基礎知識と表現方法を、様々な音楽活動を通して学びます。歌唱、楽器、創作活動を通して他者と音楽でコミュニケーションを図る楽しさを共有し、自己の表現力を向上させる方法について実践的に学びます。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：音楽の基礎知識① 音符の種類、基礎リズム、拍子とフレーズの理解			
第3回：音楽の基礎知識② 音階、形式、コード、移調の理解			
第4回：子どもの音楽教育の紹介 子どもの歌の歴史と教育の解説			
第5回：音楽活動の実践① 歌唱表現 わらべうた、カノン、オノマトペ			
第6回：音楽活動の実践② 器楽表現 リズムアンサンブル、創作リズム			
第7回：音楽活動の実践③ 身体表現 鑑賞、創作ダンス			
第8回：歌唱法① 世界の歌で学ぶ歌唱法			
第9回：歌唱法② 日本の歌で学ぶ歌唱法			
第10回：合奏① 楽器アンサンブル（創作楽器制作）			
第11回：合奏② 楽器アンサンブル			
第12回：音楽療法① 対象児の理解と音楽活動の紹介			
第13回：音楽療法② 対象児の理解と即興演奏の実践			
第14回：発表①（Aグループ）			
第15回：発表②（Bグループ）			
定期試験は実施しない			
テキスト			
小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）小学校音楽科教育法（教育芸術社） 随時プリントを配布する。			

参考書・参考資料等

小学校音楽科教科書（教育芸術社）

学生に対する評価

レポート40%、発表40%、授業への取り組み（感想シートの提出）20%

授業科目名： 遊びを通して学ぶ体育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：稲木光晴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学習指導要領における体育の目標及び内容を理解し、遊びとの関連性を説明できる。 ● 子どもの発達段階と遊び（運動）の関係性を理解し、適切な遊び（運動）を選択・アレンジできる。 ● 遊びの指導計画を立案、実践、評価できる。 ● 遊び（運動）に関する知識や技能を身につけ、思考力・判断力・表現力を高めるとともに、健康・体力の保持増進を図ることができる。 			
授業の概要			
<p>小学校学習指導要領における体育の目標及び内容を踏まえ、「遊び」を教育的視点から捉え直し、その可能性と実践方法を探求することを目的とする。学生が、子どもの発達段階に応じた遊びを通じた体育授業を構想・実践できるよう、理論と実践の両面からアプローチする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業概要の説明等			
第2回：小学校における体育科の目標と内容			
第3回：子どもの発達と遊び			
第4回：遊びの分類と教育効果			
第5回：体づくりの運動遊び（1）体ほぐしの運動遊び			
第6回：体づくりの運動遊び（2）多様な動きをつくる運動遊び			
第7回：器械・器具を使った運動遊び（1）マット			
第8回：器械・器具を使った運動遊び（2）跳び箱			
第9回：器械・器具を使った運動遊び（3）鉄棒			
第10回：走・跳の運動遊び			
第11回：表現リズム遊び			
第12回：ボールゲームと鬼遊び			
第13回：遊びの指導計画の作成			
第14回：遊びの指導実践・評価			
第15回：まとめ・振り返り			
定期試験は実施しない			

テキスト
小学校学習指導要領解説体育編（平成29年告示 文部科学省 東洋館出版）
参考書・参考資料等
アクティブ チャイルド プログラム ガイドブック（日本スポーツ協会） 楽しい運動あそび集（日本スポーツ協会） ストレスの軽減を意図した運動遊びプログラム（日本スポーツ協会）
学生に対する評価
小テスト（30％）、課題・レポート（50％）、発表内容・方法（20％）

授業科目名： Foundations (Reading & Writing) I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 塚本 美紀
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標 批判的思考アプローチを基に、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使いながら、特に「読むこと」と「書くこと」に重点を置いて様々なトピックについて学ぶことで、論理的な思考力を身につけながら、英語運用能力を向上させることを目指す。			
授業の概要 一つのトピックについて、英文を聞いたり読んだりしたりし、その中で得た情報を基に質問に答えたり、グループでディスカッションしたりすることを通して、批判的思考力を向上させながら、最終的にはそのトピックに関するエッセーを書く。			
授業計画 第1回：Unit 1 (1) 英文にざっと目を通し、全体像を把握する方法について学ぶ。 第2回：Unit 1 (2) 英文をじっくり読んで、情報を分類する方法について学ぶ。 第3回：Unit 1 (3) 主題文と支持文の役割について学ぶ。 第4回：Unit 1 (4) 自分に相応しい職業についてのエッセーを書く。 第5回：Unit 2 (1) 言い換えの方法について学ぶ。 第6回：Unit 2 (2) 英文に素早く目を通し、全体の大意を掴む方法について学ぶ。 第7回：Unit 2 (3) 接続詞を用いて効果的な英文を書く方法について学ぶ。 第8回：Unit 2 (4) 良い学び方についてのエッセーを書く。 第9回：Unit 3 (1) 英文を読み、各トピックについての長所と短所を読み取る方法を学ぶ。 第10回：Unit 3 (2) 表やグラフを正確に理解し的確に英文を読み取る方法について学ぶ。 第11回：Unit 3 (3) 英文のパラグラフの構成の方法について学ぶ。 第12回：Unit 3 (4) リラックスする方法についてのエッセーを書く。 第13回：Unit 4 (1) 各パラグラフの主題文を見つける方法について学ぶ。 第14回：Unit 4 (2) 主題文を説明している支持文を正しく把握する方法について学ぶ。 第15回：Unit 4 (3) 笑いの効果についてのエッセーを書く。 定期試験は実施しない			
テキスト Q: Skills for Success: Level 1: Reading and Writing, Third Edition, Oxford University Press			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 小テスト(40%)、エッセー(40%)、その他の提出物(20%)			

授業科目名： Foundations (Listening & Speaking) I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： Andrew Zitzmann
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、様々な個人活動やグループ活動を通して、学生の英語のスピーキングスキルとリスニングスキルの向上を目指しています。これらのスキルの向上により、英語コミュニケーション能力の向上だけでなく、英語使用に対する自信の獲得が期待されます。この授業を通して身につけたスキルは、他の英語科目への参加や理解力の基礎となります。			
授業の概要 この授業では、共通のトピックを3週間サイクルで取り上げ、様々なスキルや語彙を学習します。コース教材で扱う内容の理解を深めるため授業内外でリスニングとスピーキングのアクティビティを通して強化・練習していきます。			
授業計画 第1回：オリエンテーション レポートづくりと、授業目標と進め方を理解し目標を達成するための行動計画を立てる。 第2回：ユニット 1: キャリア ノートテーキングスキル。キーワードと主なアイデアを書く トピックに関連したリスニングとスピーキングのアクティビティ 第3回：ユニット 1 (続き) 語彙の増強とアクティビティでのアウトプット 第4回：ユニット 1 (続き) スキルビルディング：繰り返しと明確化を求める ロールプレイ 第5回：ユニット 2: 認知 ノートテーキングスキル。図表の使用 トピックに関連したリスニングとスピーキングのアクティビティ 第6回：ユニット 2 (続き) 語彙の増強とアクティビティでのアウトプット 第7回：ユニット 2(続き) スキルビルディング：アイデアのサポート、メモからの情報提示 プレゼンテーション活動 第8回：中間テスト 第9回：ユニット 3: 旅行 ノートテーキングスキル：重要な情報を特定する。 トピックに関連したリスニングとスピーキングのアクティビティ 第10回：ユニット 3(続き) 語彙の増強とアクティビティでのアウトプット 第11回：ユニット 3(続き) スキルビルディング：繰り返しと明確化を求める ロールプレイ 第12回：ユニット 4: ボディランゲージ ノートテーキングスキル：ワードウェブの使用 トピックに関連したリスニングとスピーキングのアクティビティ			

第13回：ユニット4(続き) 語彙の増強とアクティビティでのアウトプット
第14回：ユニット4(続き) スキルビルディング：繰り返しと明確化を求める ロールプレイ
第15回：テストと自己評価 定期試験は実施しない
テキスト Q: Skills for Success: Listening and Speaking, Third Edition, Oxford University Press
参考書・参考資料等 教材は教師が用意する
学生に対する評価 小テスト 30%、発表 40%、課題 20%、自己評価 10%

授業科目名： 異文化間コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： Kristen Sullivan
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では、異文化コミュニケーション論に関する基礎的な知識を習得するとともに、その知識を様々な文脈における異文化コミュニケーションに応用し、主体的に対応できる能力を養うことを目的とします。</p> <p>到達目標：</p> <p>①異文化コミュニケーションの重要な概念を理解することができる。</p> <p>②文化背景の異なる人に対して、開かれた心と態度を持つことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、異文化コミュニケーション論の主要な概念や理論について学ぶ。これらに応用しながら、文化とコミュニケーションが関わる社会問題や日常の異文化コミュニケーションを考察することを通して、異文化コミュニケーションのあり方を探っていくことを目的とする。また、異文化トレーニングのアクティビティを通して異文化コミュニケーションに対する理解を深めることや異文化コミュニケーション能力を高めることをめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：異文化間コミュニケーションを学ぶ意義について</p> <p>第2回：異文化コミュニケーションの基礎概念 「文化」、「コミュニケーション」、「異文化コミュニケーション」とは何か。異文化コミュニケーションを学ぶにあたり重要な基礎概念を確認する。</p> <p>第3回：自己とアイデンティティ 「自己」について考えた上で、「自己像」や「アイデンティティ」のコミュニケーションや文化、社会との関係について考える。</p> <p>第4回：異文化コミュニケーションの障壁 「ステレオタイプ」、「偏見」、「差別」について確認し、ステレオタイプや偏見に陥ってしまわないための対処法について考える。</p> <p>第5回：ケーススタディ 1 「自己とアイデンティティ」および「異文化コミュニケーションの障壁」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。</p> <p>第6回：深層文化の探求 「文化的価値観と思考パターン」に焦点を当てながら、深層文化の姿を客観的に見る目を養い、異文化コミュニケーションの文脈においてどう活かせればよいかについて考える。</p> <p>第7回：言語コミュニケーション 「言語コミュニケーション」とは何か。異文化コミュニケーションにおいてどのようなことに注意すればよいかについて考える。</p> <p>第8回：非言語コミュニケーション 「非言語コミュニケーション」とは何か。異文化コミュニケーションにおいてどのようなことに注意すればよいかについて考える。</p> <p>第9回：ケーススタディ 2 「深層文化」、「言語コミュニケーション」、「非言語コミュニケーション」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。</p>			

<p>第10回：カルチャーショックと適応プロセス 「カルチャーショック」、「異文化適応プロセス」、「人間的成長の過程としての異文化適応」、「異文化経験によって生じる文化的アイデンティティの変化」について考察する。</p> <p>第11回：対人コミュニケーション 今までの学びを応用して、個人が文化的背景の異なる他者と人間関係を構築する際にどのような問題に遭遇し、またそれらにどのように向き合っていけばよいかについて考える。</p> <p>第12回：ケーススタディ3 「対人コミュニケーション」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。</p> <p>第13回：異文化コミュニケーションの教育・訓練1 異文化コミュニケーション能力とその育成を図る教育・訓練について考える。異文化コミュニケーショントレーニングのアクティビティを体験する。</p> <p>第14回：異文化コミュニケーションの教育・訓練2 異文化シミュレーションアクティビティに参加し、異文化接触の疑似体験をする。</p> <p>第15回：異文化コミュニケーショントレーニング体験への振り返り 第13回と第14回で体験した異文化コミュニケーショントレーニングのアクティビティについて意見交換を行った後、授業全体のまとめを行う。</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト 石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣</p>
<p>参考書・参考資料等 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション—誤解・失敗・すれ違い』有斐閣</p>
<p>学生に対する評価 振り返り課題50%、期末レポート50%</p>

授業科目名： 英語の発音とリズム I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 かおり 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の子音の調音点や調音方法について学び、自然で明瞭な音声を発音および聞き取ることができる。 2. 英語の母音の音声的特徴を理解し、自然で明瞭な音声を発音および聞き取ることができる。 3. 国際音声表記（IPA）を理解し、英語の母音および子音をIPAで表記したり、IPA表記を読んだりできる。 4. 英語の母音・子音（分節音レベル）のみならず強勢やリズム、イントネーション（超分節音レベル）での英語の音声的特徴について理解を深め、説明できる。 5. 英語の母音・子音、リズムやイントネーションに関わる英語音声の法則全般について理解し、日常の英語使用場面において実践的に活用できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>英語の母音や子音、強勢やリズム、イントネーションに関わる英語の音声的法則全般について理論と実践の両面から学ぶ。音声学の基本的な理論を理解し、英語の母音・子音の発音法および聴取法について演習や発音訓練を通じて実践的に学ぶことで、日常的な英語の発音や聞き取りに自信がもてるようになることを目指す。また、英語と日本語の音声的特徴を比較し、両言語間の音声構造の違いについても理解を深める。国際音声表記(IPA)に関する基礎的な知識を身につけ、英語学習や英語教育にも活用できるようになることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業のねらい・内容・評価方法等について／音声学とは何か）</p> <p>第2回：調音点と調音方法（音声器官と音の分類／調音点と調音方法について）</p> <p>第3回：英語の子音(1)（閉鎖音／演習と発音練習）</p> <p>第4回：英語の子音(2)（鼻音・摩擦音／演習と発音練習）</p> <p>第5回：英語の子音(3)（摩擦音と破擦音／演習と発音練習）</p> <p>第6回：英語の子音(4)（側音・半母音／演習と発音練習）</p> <p>第7回：review（英語の子音の総復習と発音練習）</p> <p>第8回：英語の母音(1)（前舌母音／演習と発音練習）</p> <p>第9回：英語の母音(2)（後舌母音・中舌母音／演習と発音練習）</p> <p>第10回：英語の母音(3)（二重母音／演習と発音練習）</p>			

第11回：強勢（音節と語強勢・文強勢／演習と発音練習）

第12回：ポーズ（ポーズの位置／演習と発音練習）

第13回：音のつながり(1)（連結／演習と発音練習）

第14回：音のつながり(2)（脱落／演習と発音練習）

第15回：音のつながり(3)（同化／演習と発音練習）／総括

定期試験は実施しない

テキスト

今井由美子／井上球美子 他共著（2020年）『英語音声学への扉—発音とリスニングを中心に—』【改訂版】 Sounds Make Perfect DVD付, 英宝社. (ISBN: 978-4-269-63014-7)
) 本体2,400円＋税

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

①課題レポート（50%）、②授業中の小課題への取組み（30%）、③発音練習等による授業への参加度（20%）を総合的に評価します。

授業科目名： 英語学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西原 真弓
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業では、我々が日常的に使う「ことば」を多角的な視点で分析する方法を学びながら、ことばや表現方法の面白さや深さを探求することを目的とします。英語学概論 I では、英語学で扱う分野のうち音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の基礎的な考え方を学習し、言語に関する理解をより深めていきます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>英語という言語を深く理解するために、音声学、形態論、統語論、意味論、語用論のそれぞれの視点から基礎的な考え方を学習する。その際、実用的に理解を深めるため日英語比較を用いながら、それぞれの言語の特徴を理解していく。学習した理論や学説を用いて、自分でテーマを決め研究したことを最後に発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：言語学、英語学とは 第 2 回：英語の歴史 第 3 回：音声学・音韻論（音素と異音） 第 4 回：音声学・音韻論（アクセント） 第 5 回：音声学・音韻論（リズムとイントネーション、音変化） 第 6 回：形態論（英語の単語のつくり） 第 7 回：形態論（新しい単語の誕生） 第 8 回：統語論（英語の句構造） 第 9 回：統語論（英語の文の内部構造） 第 10 回：意味論（単語の意味分析） 第 11 回：意味論（意味の拡張：メタファー、メトニミー等の仕組み） 第 12 回：意味論（言葉の意味に見られる主観性とコンテキスト） 第 13 回：語用論（コミュニケーションが機能する仕組み） 第 14 回：各自のテーマによる発表（前半） 第 15 回：各自のテーマによる発表（後半） 定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>長谷川瑞穂編著『はじめての英語学 改訂版』 研究社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>マーク・ピーターセン著『コミュニケーション英語学』 集英社インターナショナル</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート 60%、 発表 20%、 課題に取り組む態度 20%</p>			

授業科目名： 英語文学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬本 鈴子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れることができる。 2. 講義を通して精読、速読を進める中で、英語力の向上ができる。 3. 1、2で達成した目標に挙げられる力を小学生の英語教育に生かすことができる。 			
授業の概要			
<p>英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していく。まずは、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本であるThe Tale of Peter Rabbitを原文で読み、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードのgraded readers 版で、探偵小説Sherlock Holmesと、児童文学の傑作Anne of Green Gables を読む。また折にふれて、原作と比較をしたり、映像資料を見たり、他の関連作家の作品を紹介したりする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業オリエンテーション＋The Tale of Peter Rabbit導入 ピーターラビット資料配布、和訳提出役割表の説明、文学との関わりにおける自己紹介、春休みの読書体験などを記入</p> <p>第2回：The Tale of Peter Rabbit前半 読解確認・内容解説 雑誌より湖水地方を紹介する 作家の人生とナショナルトラストについて説明する クラスメイトの文学に関する情報をシェアする</p> <p>第3回：The Tale of Peter Rabbit後半 読解確認・内容解説 ピーター家系図を見る、Peter Piper、『ピーターラビットのおはなし』資料説明 映像資料（冒頭）、映画メモ記入</p> <p>第4回：映像資料（残り）＋補足説明 映画メモ記入</p> <p>第5回：映画メモ返却</p> <p>Sherlock Holmes: The Speckled Band</p>			

読解確認・内容解説

ベーカーストリートや作家の履歴を確認する（クラスルーム資料、動画あり）

第6回：Sherlock Holmes: A Scandal in Bohemia

読解確認・内容解説

第7回：Sherlock Holmes: The Five Orange Pips

読解確認・内容解説

第8回：映像資料+補足説明

映画メモ記入

第9回：映画メモ返却

Anne of Green Gables 1-2

読解確認・内容解説

最初のシーンの原作を確認する

careの用法（クラスルーム資料あり）

第10回：Anne of Green Gables 3-4

読解確認・内容解説

リンド夫人に対決するアンのセリフを原作で確認する（クラスルーム資料あり）

第11回：Anne of Green Gables 5-6

読解確認・内容解説

マッシュをなくしたアンの心情を原作で確認する、登場人物とキリスト教（クラスルーム資料あり）

第12回：映像資料（前半）+補足説明

映画メモ記入

第13回：映像資料（後半）+補足説明

映画メモ記入

第14回：映画メモ返却

Anne of Green Gables文学批評+補足説明

読み方・作家の履歴を確認する、最後のシーンの原作を確認する、ロバート・ブラウニングの詩を読む（クラスルーム資料あり）

第15回：まとめ

小テスト（第1週～第14週の復習・確認及び応用）

*辞書・タブレット・携帯や訳本以外は、前期に扱ったテキストやメモ、自分の和訳やクラスルーム資料をプリントアウトしたものなど全て持ち込み可能。

アンケート

定期試験は実施しない

テキスト

Oxford Bookworms Library 2: Sherlock Holmes Short Stories (OUP)

Oxford Bookworms Library 2: Anne of Green Gables (OUP)

The Tale of Peter Rabbit (Frederick Warne & Co. Ltd.)

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

小テスト40%、第15回授業時間に、指示に従い解答して提出

レポート30%、毎回の授業で提出する和訳や確認ミニテスト、感想などで評価する

その他30%、発表の仕方、内容の質、授業受講時の態度などで評価する

授業科目名： Digital Media I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： Malcolm Ross Swanson
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>このコースを受講する学生は、以下の目標到達を目指す：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なメディアを英語学習のリソースとして活用できる。 2. 自習コースを利用し、自分の英語学習を計画することができる。 3. 英語の苦手分野を把握し、その分野に的を絞ってメディアを学ぶことができる。 4. このクラスでの英語学習の振り返り日記をつけることができる。 			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CHJeruのeラーニングシステムの中で集中的にアクティビティを行い、毎月の目標を達成するために自分のペースで英語学習を行う方法を学ぶ。 2. Google ClassroomやMy Studyなどのオンライン・リソースを利用して、個別及び協働での学習方法を学ぶ。 3. インターネット、テレビ、映画、新聞などのメディアで使用されている英語の探求を始める。これは、2年次後期にこのメディアをより深く探究するための準備である。 <p>・授業はすべて英語で行われる。 ・学生は自分のペースで毎週アクティビティに取り組み、自身の目標達成に向けて自分の能力や取り組みを自己評価する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>【第1回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介：コースに関する情報と、使用するウェブサイト「My Study」の紹介。オンライン上の安全と注意について学ぶ。 2. CHJeru自習のためのオリエンテーション <p>【第2回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Googleドキュメントの使い方：ソフトウェアの説明と、他の生徒とファイルを共同編集する方法。 2. My Studyのテキストエディタを使用する。 3. CHJeru：毎月の目標設定 <p>【第3回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Googleフォームを使った英語でのアンケート調査：Googleフォームの説明、アンケートの作成、共有、回答。 2. CHJeruを使ってリスニング力を高める。 <p>【第4回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前週のアンケートを完了し、結果を共有する。 2. 基本的なAIリテラシー：AIを言語学習に役立てる。 3. CHJeruを使って文法力を高める。 <p>【第5回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google スライドを使ったプレゼンテーションの作成と共同作業：Googleスライドの説明、他のプレゼンテーションソフトとの比較。2人1組で協力してスライドプレゼンテーションを作成する。 2. CHJeruを使ってTOEICやTOEFLテストのスキルを上げる。 			

<p>【第6回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Canvaでデザインを学ぶ：Canvaのサービス紹介、基本的なデザインテクニック。 2.CHJeruを使って語彙力を増やす。 <p>【第7回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.映画の台詞と表現映画の会話表現を分析し、イディオム、スラング、表現を特定する。 2.CHJeruを使ってリスニング力を高める。 <p>【第8回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ニュース記事の理解：短いニュース記事を用いて読解の練習をし、ニュース記事の主なアイデアとそれを支える詳細を特定する。 2.ニュース放送の視聴を通したリスニングスキル：ニュース報道のトーン、ペース、キーポイントを理解する。 <p>【第9回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.メディア・レビューの書き方メディア批評の構成：序論、要点、結論。 2.ウェブクエスツ研究活動。 <p>【第10回】：広告と説得：広告における言葉とテクニック、特に海外の広告における説得力のある言葉やスローガンに焦点を当てる。</p> <p>【第11回】：英語メディアのためのライティング：英語学科ブログやインスタグラムを使ったブログの書き方を紹介し、簡潔で魅力的な文章を書くことに重点を置く。</p> <p>【第12回】：英語の音楽歌詞の探求：歌詞のテーマ、比喻、表現を分析する。</p> <p>【第13回】：メディアコンテンツの作成：ビデオ制作やオーディオ録音の基礎を紹介し、明瞭なスピーチと魅力的なコンテンツに焦点を当てる。</p> <p>【第14回】：【第13回】に引き続きビデオ・プロジェクトに取り組む。</p> <p>【第15回】：コースのまとめと最終プレゼンテーション：重要な語彙とスキルを復習する。 学生は最終ビデオプロジェクトを発表し、他のグループの相互評価を行う。</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>教材はすべて教師が用意する。</p> <p>フォローアップの課題、小テスト、日誌はMoodleのウェブサイト「My Study」で行う。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E/J辞書 ・CHJeruスーパー英語
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート 20%、発表（口頭、プレゼンテーション） 40%、レポート外の提出 40%</p>

授業科目名： こども英語教育演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西原 真弓
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における外国語活動・外国語科について、教育目標や教育内容及び指導方法を理解し、実践することができるようになることを目指す。			
授業の概要 学習指導要領を用いて教育目標や教育内容を理解しながら、教科書やデジタル教科書の内容を分析し、児童に適した指導法を考える。音声を中心とした英語指導から徐々に文字指導を含める際の有効な活動などを実践的に考察し理解を深める。また、小学校で頻繁に用いられるチャンツや歌、アクティビティについても実践的に指導技術を高めていく。			
授業計画 第1回：小学校外国語教育の授業の理解（MEXT Channel 授業動画視聴） 第2回：小学校における英語教育導入の背景 第3回：小学校学習指導要領 第4回：小学校教科書研究①中学年外国語活動 第5回：小学校教科書研究②高学年外国語科 第6回：チャンツや歌を利用した音声指導 第7回：言語活動やアクティビティ 第8回：授業における絵本の利用 第9回：文字指導の導入（フォニックス） 第10回：授業計画と指導案 第11回：小学校外国語活動（3年生）模擬授業 第12回：小学校外国語活動（4年生）模擬授業 第13回：小学校外国語科（5年生）模擬授業 第14回：小学校外国語科（6年生）模擬授業 第15回：文字指導を中心とした小学校6年生の模擬授業 定期試験は実施しない			
テキスト 吉田研作監修 小川隆夫・東仁美著『小学校英語 はじめる教科書 改訂版3版』mpi 松香フォニックス			
参考書・参考資料等 『小学校学習指導要領解説・外国語活動編』（平成29年）文部科学省 『小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック』（平成28年）文部科学省 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動」			
学生に対する評価 レポート 40%、模擬授業 45%、授業内での貢献度と取り組み姿勢 15%			

授業科目名： 国語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 城戸 祥次
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 学習指導要領を踏まえ、国語科（書写を含む）の指導目標・内容・方法及び評価について理解し、国語科の授業に必要な基本的な知識・技能等を身に付けることができる。</p> <p>② 国語科のICT機器の活用を含めた学習指導案を作成できる。</p> <p>③ 模擬授業を通じて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>小学校における国語科の授業を実際に行うことができるようにグループワークで演習的に学ぶ。</p> <p>学習指導要領を踏まえ、小学校の国語科の教育としての目的・内容・方法や評価等についての理解を深める。また、教材研究や、教材の活用法及び指導案作成の方法を理解するとともに、実践的な国語科指導法を身に付けることができるようにする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、学習指導要領における目標および内容ならびに全体構造の理解／情報通信技術の活用について			
第2回：学習指導要領に基づいた教材研究と学習指導案のたて方、学習評価について／音読・読書指導について			
第3回：課題別・グループ別による教材研究と学習指導案の作成			
第4回：「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する模擬授業及び研究協議			
第5回：「話すこと・聞くこと」に関する模擬授業及び研究協議			
第6回：「読むこと」に関する模擬授業及び研究協議			
第7回：「書くこと」に関する模擬授業及び研究協議			
第8回：書写指導のあり方とその実際			
定期試験は実施しない			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年告示 文部科学省）ほか			
参考書・参考資料等			
その都度紹介する			
学生に対する評価			
レポート及び授業中の発言や学びの態度などで総合的に評価する。			
模擬授業における学習指導案作成力・授業表現力 70%			

研究協議会における発言や、成果と課題の指摘等 30%

授業科目名： 社会科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大庭 正美・松本 和寿 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・社会		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえ、社会科の目標・内容について理解し、社会科の授業に必要な基本的な知識・技能等を身に着けることができる。 ・社会科のICT機器の活用を含めた学習指導案を作成できる。 			
授業の概要 <p>学習指導要領を踏まえ、小学校における社会科教育の目的・内容等についての理解を深め、基本的な授業の在り方や指導方法・留意点などについて考察する。また、グループワークを通して学習指導案や模擬授業について協議し、授業の実際について考察する。</p>			
授業計画 <p>第1回：オリエンテーション 教育課程における社会科の位置づけ・教育的意義（大庭） 第2回：小学校社会科の目標・内容及び学習指導要領における社会科の変遷（松本） 第3回：各学年の内容及び指導上の留意点等（大庭） 第4回：社会科の教材研究・指導計画作成の留意点、情報機器の活用等（大庭） 第5回：社会科の授業づくりの実際（学習指導案作成等）（大庭） 第6回：社会科授業の具体的展開（模擬授業等）（大庭） 第7回：社会科授業の指導と評価（松本） 第8回：まとめ 小学校社会科の課題と展望（大庭）</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト <p>小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年告示 文部科学省）</p>			
参考書・参考資料等 <p>小学校社会科検定教科書、北九州スタンダードカリキュラム</p>			
学生に対する評価 <p>レポート（70%） 学習指導案・模擬授業の内容（30%）</p>			

授業科目名： 算数科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村尾 隆
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・算数		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえ、算数科の目標・内容について理解し、算数科の授業に必要な基本的な知識・技能等を身に着けることができる。 ・算数科のICT機器の活用を含めた学習指導案を作成できる。 			
授業の概要 <p>学習指導要領を踏まえ、小学校の算数科の教育としての目的・内容等についての理解を深めます。「主体的・対話的で深い学び」について知り、その考えを踏まえた学習指導案を作成、協議することで、授業づくりについての理解を促します。</p>			
授業計画 <p>第1回：算数科教育の歴史と近年の動向 第2回：算数科教育の意義と算数科の目標 第3回：算数科の内容と領域、学習評価、教材研究 第4回：数学的な見方・考え方について 第5回：算数科における問題解決と学習展開 第6回：学習指導案と板書・発問、ICT活用等 第7回：指導案発表又は模擬授業、協議（1～3年生） 第8回：指導案発表又は模擬授業、協議（4～6年生）</p> 定期試験			
テキスト <p>小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年告示 文部科学省）</p>			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 レポート50%、発表50%			

授業科目名： 理科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 淵上 正彦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 ①学習指導要領に示された理科の目標と内容を理解する。 ②ICT機器の活用を組み込んだ学習指導案を作成する。			
授業の概要 理科教育は、理科の見方・考え方を働かせ見通しをもって観察、実験を行い、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する教科である。そのため児童が自然の事物・現象を日常生活と関連付け、自ら問題を持ち、見通しをもって解決する主体性が欠かせない。そこで、理科教育で育成する資質能力の三つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」とは何か、「理科の見方・考え方」の働かせ方、「理科の内容構成」などについて理解すると共に、学習前後に日常生活と関連付けた提示や展開、振り返りなど、有用性のある学習の展開を思考するようにする。			
授業計画 第1回：理科と日常生活の関連「理科は役に立つのか」 第2回：理科の目標、内容、学習評価 第3回：理科の内容構成 第4回：理科の見方・考え方を働かせた授業、教材研究 第5回：理科の個別最適な学びと協働的学び、指導案の作成 第6回：3年生理科の授業の実際（模擬授業とICTの活用） 第7回：6年生理科の授業の実際（模擬授業とICTの活用） 第8回：理科教育と人間形成 定期試験は実施しない			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等 改訂版 なぜ、理科を教えるのか：理科教育がわかる教科書 角屋重樹（著）文溪堂			
学生に対する評価 小テスト40%、レポート30%、受講態度30%			

授業科目名： 生活科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中原 健治
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領を踏まえ、生活科の目標・内容について理解し、生活科の授業に必要な基本的な知識・技能等を身に着けることができる。</p> <p>生活科のICT機器の活用を含めた学習指導案を作成できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領を踏まえ、小学校の生活科の教育としての目的・内容等についての理解を深めます。生活科の教材研究、ICT及び教材の活用法と学習指導案の作成方法を学びます。グループワークや模擬授業を実施し、実践的な指導力の育成を目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションー生活科の目標、内容ー</p> <p>第2回：生活科の授業づくりについて（教材研究、ICTの活用）</p> <p>第3回：内容1 学校と生活（指導案作成、模擬授業）</p> <p>第4回：内容2 地域と生活（指導案作成、模擬授業）</p> <p>第5回：内容3 公共物・公共施設の利用（指導案作成、模擬授業）</p> <p>第6回：内容4 身近な自然や物を使った遊び（指導案作成、模擬授業）</p> <p>第7回：内容5 自分の成長（指導案作成、模擬授業）</p> <p>第8回：生活科の学習評価について</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）</p> <p>小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年告示 文部科学省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の課題、授業の感想等60%、発表40%（指導案作成）</p>			

授業科目名： 音楽科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 倉本 京子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・音楽		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領を踏まえ、音楽科の目標・内容について理解し、音楽科の授業に必要な基本的な知識・技能等を身に着けることができる。</p> <p>教材、指導方法を調べ、音楽科のICT機器の活用を含めた学習指導案を作成できる。</p> <p>作成した指導案をもとに、模擬授業を行うことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領を踏まえ、小学校の音楽科の教育としての目的・内容等についての理解を深めます。また、児童理解と教育活動、教育方法、教材及び指導計画、指導案作成について理解し、模擬授業を通して実践的に学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校音楽科の目標と内容の理解</p> <p>第2回：「A表現」歌唱分野の内容と学習活動</p> <p>第3回：「A表現」器楽分野の内容と学習活動</p> <p>第4回：「A表現」音楽づくり分野の内容と学習活動</p> <p>第5回：「B鑑賞」の内容と学習活動</p> <p>第6回：「共通事項」と評価方法の理解と指導案作成、ICT機器の活用法</p> <p>第7回： 模擬授業の実施（1～4年）</p> <p>第8回： 模擬授業の実施（5～6年）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、小学校音楽科教育法（教育芸術社）</p> <p>小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年告示 文部科学省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校音楽科教科書（教育芸術社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート・指導案30%、模擬授業40%、定期試験（歌唱・器楽の実技）20%、授業への取り組み10%</p>			

授業科目名： 図画工作科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 野々平 美幸
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作科の題材を体験し、学習指導要領を踏まえた理論との関連を確認し、その学力について考える。 小学校の低学年から高学年にかけての図画工作科の各領域の題材を実際に体験しながら、学習指導要領を踏まえた理論との関連を確認し、この教科で育むべき資質・能力について考え、指導者としての専門的かつ基礎的な知識及び技能を獲得していくことができるようにする。			
授業の概要 講義担当者の小学校での実務経験を活かして、できるだけ学校教育の現場における取組を想定した内容で構成する。小学校の図画工作科の各領域の題材を実際に体験しながら、学習指導要領を踏まえた理論との関連を確認して、学習指導案作成や模擬授業を含めた題材研究を行い、小学校の図画工作科授業を担当するために必要な専門的かつ基礎的な知識及び技能を獲得することができるようにする。			
授業計画 第1回：図画工作科の目標・内容について 題材研究：絵に表す活動（低学年） 第2回：図画工作科でつける学力 題材研究：立体に表す活動（低学年） 第3回：図画工作科の学習評価 題材研究：立体に表す活動（中学年） 第4回：図画工作科の授業づくり(1) 題材研究：絵に表す（描画）活動（中学年） 第5回：図画工作科の授業づくり(2) 題材研究：絵に表す（版画）活動（中学年） 第6回：図画工作科の学習指導計画(1) 模擬授業 題材研究：工作に表す活動（高学年） 第7回：図画工作科の学習指導計画(2) 模擬授業 題材研究：鑑賞の活動（高学年） 第8回：図画工作科の存在意義 題材研究：鑑賞の活動（高学年）デジタルツールの活用 定期試験は実施しない			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省） 小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年告示 文部科学省） 小学校図画工作教科書 1・2上下 開隆堂出版 小学校図画工作教科書 3・4上下 開隆堂出版 小学校図画工作教科書 5・6上下 開隆堂出版			
参考書・参考資料等 鑑賞学習資料「北九州市立美術館を活用した学習プログラム」 平成21～23年度科学研究費補助金基盤研究（B）課題番号21330204 研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」報告書「北九州市美術鑑賞教育カリキュラム」			

学生に対する評価

学習指導計画25%、模擬授業25%、レポート25%、表現実技25%

授業科目名： 家庭科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 内本 郁美
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 小学校学習指導要領の「家庭」の目標や内容を理解している。</p> <p>2) 小学校家庭科の特性に応じた ICT の効果的な活用法を理解し、授業づくりに活用することができる。</p> <p>3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成することができる。</p> <p>4) 模擬授業の実施とリフレクションを通して、学習評価の考え方を理解し、授業改善の視点を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>家庭科教育についての基礎的な学習指導理論を踏まえ、家庭科教育の意義、家庭科の学習活動を通して育成される資質能力、学習方法や評価方法などを理解することができるようにする。また、子どもが自ら考え、その考えを伝え合いながら探究していく学習活動のために、どのような授業づくりを工夫すればよいか、具体的な授業場面を想定した授業計画や学習指導案等を作成した後、模擬授業を実施する。特に、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う授業づくりを目指し、実践的な教科指導力を身に付けることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（家庭科の学習経験の振り返り・小学校家庭科の歴史と変遷）			
第2回：小学校家庭科の目標及び内容、年間指導計画や題材構成の工夫			
第3回：小学校家庭科の学習指導の工夫（学習形態、教材研究、評価）			
第4回：学習指導要領の内容分析と理解「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」			
第5回：学習指導案の作成①（教材研究の仕方、題材の目標、指導計画、評価計画等）			
第6回：学習指導案の作成②（本時の目標、学習指導過程、ICTの効果的な活用）			
第7回：模擬授業の準備			
第8回：模擬授業案の実施とこれからの家庭科授業の在り方（まとめ）			
定期試験			

テキスト

1. 小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
2. 「小学校家庭科の授業をつくる～理論・実践の基礎知識～」 学術図書出版
3. 小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

1. 検定教科書『新しい家庭 5、6』 東京書籍

学生に対する評価

毎時間ごとの授業ポートフォリオ（20%）、課題レポート（20%）、学習指導案の作成・模擬授業への取組（30%）、定期試験（30%）

授業科目名： 体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮平 喬 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） ・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><テーマ>小学校の体育科授業を担当するための基本的な内容を理解するとともに、実践的指導力の基礎を身に付ける。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領解説体育編に示された小学校体育科の目標・内容等の概要を理解する。 2 「よい体育授業」のイメージを明確にもち、授業実施に必要な基本的な知識・技能等及び実践的指導力の素地を身に付ける。 3 「よい体育授業」に関する基礎的な理論に基づき、学習指導案を作成できる。（ICT機器の活用等を含む。） 			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領及び学習指導要領解説体育編の概要を踏まえ、小学校体育科学習指導の基本的な内容（目標・内容・系統・領域等）や授業づくりの基礎について理解できるようにする。次に「よい体育授業の条件」を理論面から学ぶとともに、DVD教材・授業場面のVTR等を活用したグループディスカッション等を通して、「よい体育授業」のイメージを明確にもつことができるようにする。さらに、これら理論の上に、学習指導案を各自で作成できるようにする。</p> <p>以上の授業を通して、体育科学習指導に係る基本的な資質能力の素地を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校学習指導要領解説体育編から学ぶ体育授業①（意義、目標、内容構成等）</p> <p>第2回：小学校学習指導要領解説体育編から学ぶ体育授業②（学年別・領域別・指導計画等）</p> <p>第3回：体育と学習者、体育の教材・教具、体育の学習形態、体育の学習評価</p> <p>第4回：体育の指導方略と指導技術（モニタリング、相互作用、マネジメント、インストラクション）</p> <p>第5回：よい体育授業の条件（理論編）※一部グループディスカッション</p> <p>第6回：よい体育授業の条件（実技編）※一部グループワーク、模擬授業</p> <p>第7回：体育授業における学習指導案の作成方法（ICT機器の活用を含む）※一部演習</p> <p>第8回：体育の授業評価を通じた授業改善、教師力を高める省察、教師としての成長と能力</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）</p> <p>小学校学習指導要領解説体育編（平成29年告示 文部科学省 東洋館出版）</p>			

参考書・参考資料等

岡出美則・友添秀則・岩田靖（2021）体育科教育学入門 大修館書店

学生に対する評価

授業へのコミットメント（20％） レポートとしての学習指導案（30％） 定期試験（50％）

授業科目名： 英語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西原 真弓
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校、中学校における英語教育の到達目標と目標達成のための指導のあり方について、それぞれの学習指導要領を通して理解することができる。 2. 教師の役割と学習者の特徴について理解し、外国語教授法と関連させ、対象者と目的に応じて指導法を応用して考えることができる。 3. 指導と評価の関係と、目的に応じた評価方法について理解することができる。 4. 小学校における外国語活動、及び外国語科の指導を計画し実践することができる。 			
授業の概要			
<p>小学校、中学校、高等学校を通じた英語教育の概要を理解した上で、特に小学校の英語教育の目的、目標、教育内容と教育方法について理解、実践できるようになることを目指す。そのために、学生は授業の予習を必須とし、その内容を基に授業内でディスカッションを行い理解を深める。教育内容、教材分析、学習者の特徴、教員の役割、授業づくり等に関して理解をした後に、模擬授業を通じて小学校での英語の授業における指導スキルを身につける。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：英語の国際化と日本の英語教育の変遷 英語の国際化の変遷を理解し、その背景を基に、日本の英語(科)教育の目標及び指導方法の変遷を理解する。</p> <p>第 2 回：小学校学習指導要領 小学校学習指導要領を通して小学校外国語教育の目的と内容を理解する。</p> <p>第 3 回：中学校学習指導要領 中学校学習指導要領を通して中学校における英語教育の目的と内容を理解する。</p> <p>第 4 回：小・中・高等学校の連携 小学校、中学校、高等学校の連携の重要性と連携の在り方について理解する。</p> <p>第 5 回：児童期の言語習得の特徴 児童期の発達段階を踏まえ、音声から言語使用を通じた学習の必要性を理解する。</p> <p>第 6 回：英語教員の役割 児童・生徒の多様性を理解し柔軟に学習を支援する方法を理解すると共に、児童・生徒とのやり取りをする重要性と方法を理解する。</p> <p>第 7 回：外国語教授法 様々な外国語教授法について概要を理解する。</p> <p>第 8 回：外国語教授法の日本の英語教育への応用 英語の授業で用いられる活動を想定し、外国語教授法をいかに効果的に応用できるかそれぞれが考えたことを発表し合いディスカッションをする。</p> <p>第 9 回：教科書分析 小学校外国語活動と外国語で使用する教科書の内容を分析し教材研究の仕方を理解する。音声から文字への導き方も理解する。</p> <p>第 10 回：授業づくり 年間計画、単元計画、1 時間の授業の展開方法と評価について理解し、学習指導案の書き方や ICT の活用方法などについて理解する。</p> <p>第 11 回：小学校中学年における外国語活動の模擬授業</p>			

<p>小学校外国語活動の授業の展開方法を模擬授業実践を通して深く理解する。</p> <p>第12回：小学校高学年における外国語科の模擬授業① 小学校外国語の授業の展開方法を模擬授業実践を通して深く理解する。</p> <p>第13回：小学校高学年における外国語科の模擬授業②文字指導 小学校外国語科の授業における文字指導を模擬授業実践を通して深く理解する。</p> <p>第14回：評価 指導と評価の一体化や児童・生徒自身の振り返りの重要性、及び、パフォーマンステストについて理解する。</p> <p>第15回：ALT等とのチーム・ティーチング ALTやJTEとのチーム・ティーチングの方法について理解する。</p>
<p>テキスト</p> <p>望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』（大修館書店）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『小学校学習指導要領解説・外国語活動編』（平成29年）（文部科学省）</p> <p>『中学校学習指導要領解説外国語編』（平成29年）（文部科学省）</p> <p>『高等学校学習指導要領解説外国語編』（平成30年）（文部科学省）</p> <p>吉田研作監修 小川隆夫・東仁美著『小学校英語 はじめる教科書 改訂3版』mpi 松香フォニックス 2024年</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート 60%、授業内のディスカッションでの貢献度 20%、模擬授業・相互評価コメント 20%</p>

授業科目名： 教育ボランティア演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 塚本 美紀
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・生徒の置かれている状況の概要を理解できる。 2. 学習指導要領の概要を理解できる。 3. 児童・生徒の状況に合わせて、英語を教えることができる。 4. 教職員及び他の受講生と協力して、学習支援活動を行うことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校・中学校・高等学校が置かれている状況、学習指導要領、英語の指導の在り方などについて学び、生徒に学習支援活動を行う。授業では、学習支援の際に必要な準備、学習支援を行った後の振り返りなども行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業の概要について説明する。</p> <p>第2回：小学校・中学校・高等学校を取り巻く状況（1） 全国学力調査やその他の文部科学省などが実施している調査の結果から、小学校・中学校・高等学校の現状について学ぶ。</p> <p>第3回：小学校・中学校・高等学校を取り巻く状況（2） 教育に関する時事問題などから、小学校・中学校・高等学校の現状について学ぶ。</p> <p>第4回：学習指導要領 学習指導要領の概要について学ぶ。</p> <p>第5回：言語活動や国際交流について（1） 小学校・中学校・高等学校の英語の授業で実施されている言語活動や国際交流について、グループごとに調査する。</p> <p>第6回：言語活動や国際交流について（2） 第5回で調査した内容について、グループごとに発表する。</p> <p>第7回：企画立案（1） 小学校・中学校・高等学校で実施できる言語活動または国際交流について計画する。</p> <p>第8回：企画立案（2） 第7回で計画したことについて、発表の準備をする。</p>			

第9回：グループ発表

第8回で準備した内容について、グループごとに発表する。

第10回：企画の準備（1）

第9回の発表を振り返り、企画について検討する。

第11回：企画の準備（2）（オンデマンド）

第10回で検討したことを反映させて、企画案を修正する。

第12回：企画の準備（3）

企画の実施について、リハーサルを行う。

第13回：企画の実施

小学校・中学校・高等学校で英語学習や国際交流に関する企画を実施する。

第14回：企画実施の振り返り

小学校・中学校・高等学校での企画の実施を振り返り、課題等について話し合う。

第15回：振り返り

この授業を通して学んだ日本の教育現場の状況について振り返り、それぞれの立場から自分の果たすべき役割について考える。

定期試験は実施しない

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』（平成 29 年）文部科学省

『中学校学習指導要領解説外国語編』（平成 29 年）文部科学省

『高等学校学習指導要領解説外国語編』（平成 30 年）文部科学省

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

小テスト(40%)、レポート(50%)、レポート以外の提出物(10%)

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 茂喜 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法で国民に保障されている基本的人権についてある程度説明できる。 ・日本国憲法に規定されている統治機構についてある程度説明できる。 ・法の支配の下での国家と人間との関係の基本構造についてある程度認識できる。 			
授業の概要			
<p>日本国憲法が施行されて80年近く経過したが、この間の社会の変化に応じて、従来の仕組みや発想にとらわれてはうまく解決できない問題も数多く発生している。これらの諸問題に対して、憲法上の規範構造の中でどのように関連づけ、またどのような解答を出していくか考えることは、今後の国家と人間との関わりについて考える上での意義が大きいと考える。</p> <p>本講では、三権を中心とした統治機構、基本的人権に関する諸事項、平和主義および憲法改正に関する諸事項について講義を行う。その際、理解の一助として、学説のみならず、講義の各テーマに即した裁判例についても取り上げる。</p>			
授業計画			
第1回：テーマ：イントロダクション、国民主権 講義の進め方、日本国憲法の基本原理、国民主権について解説する。			
第2回：テーマ：国会と立法権 立法機関としての国会の地位、選挙制度、国会の活動について解説する。			
第3回：テーマ：天皇、内閣と行政権 憲法上の天皇の地位、行政機関としての内閣の地位、内閣の組織と活動、議院内閣制について解説する。			
第4回：テーマ：裁判所と司法権 司法権の意義、司法機関としての裁判所の組織と活動、裁判員制度、違憲審査制について解説する。			
第5回：テーマ：個人の尊重と幸福追求権 基本的人権、個人の尊重と幸福追求権、子どもの人権、外国人の人権について解説する。			
第6回：テーマ：プライバシー・自己決定権 新しい人権、プライバシーの権利と個人情報保護、自己決定権について解説する。			
第7回：テーマ：法の下での平等 法の下での平等の意義、差別に当たるか否かの判断基準について解説する。			
第8回：テーマ：信教の自由			

信教の自由の内容とその限界、政教分離の原則について解説する。

第9回：テーマ：表現の自由

表現の自由の意義とその内容、表現の自由の保障とその限界について解説する。

第10回：テーマ：営業の自由

経済的自由権の内容、営業の自由とその限界、規制緩和について解説する。

第11回：テーマ：生存権

社会権の内容、生存権とその法的性格について解説する。

第12回：テーマ：教育を受ける権利

教育を受ける権利の意義とその内容、教育権（教育内容決定権）と教師の教育の自由について解説する。

第13回：テーマ：死刑制度、地方自治

死刑制度の憲法適合性、地方自治の本旨、地方公共団体とその機関、住民の権利と住民投票について解説する。

第14回：テーマ：平和主義

平和的生存権、憲法9条の解釈、自衛隊・日米安保条約・集団的自衛権とそれらの憲法適合性について解説する。

第15回：テーマ：憲法改正

日本国憲法の誕生、憲法改正にかかる主な論点、憲法改正手続について解説する。

定期試験

テキスト

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著『いちばんやさしい憲法入門（第6版）』（有斐閣）

そのほか、講義動画のアップの前日に、Google Classroomよりレジュメを配布する。

参考書・参考資料等

第1回目の講義時に、講義を理解する上で参考となる諸文献を挙げる。

学生に対する評価

小テスト 30%

レポート 50%

その他 20% 学生より提出されたコメントの記述内容に基づき評価する。

授業科目名： チームスポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 稲木 光晴 八木 康夫 担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力づくりの理論と方法について説明でき、実践できる。 2. 日々の生活に運動・スポーツを取り入れ、健康増進や体力向上を図ることができる。 3. チームで協力しながら練習を行い、球技スポーツの技能向上を図ることができる。 4. チームの一員として自分の役割を果たし、チームに貢献できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>運動は栄養、休養とともに、健康と体力を支える重要な柱のひとつである。運動やスポーツを生活の中に取り入れ、活動的なライフスタイルを構築することは、生涯にわたって健康と体力を維持し、生活の質（QOL）を高く保つ上で重要である。また、コミュニケーションを図りながら、チームとして協働する経験は、将来組織の一員として自分の役割を認識し、責任を持って行動できるようになることにつながる。</p> <p>本実習では、(1)体力づくりの理論と実践方法について説明する、(2)チームで球技スポーツの練習を行い、対抗戦を行う、(3)カロリーカウンターで実習中の歩数と消費カロリーを把握する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 実習の進め方と評価方法についての説明（稲木、八木）</p> <p>第2回：形態・体力測定（1） 受講前の形態と体力レベルの把握（稲木、八木）</p> <p>第3回：筋肉づくり運動の理論と実践（稲木、八木） 筋肉づくり運動の効果と安全で効果的なやり方についての説明と実践</p> <p>第4回：スタミナづくりの理論と実践（稲木、八木） スタミナづくり運動の効果と安全で効果的なやり方についての説明と実践</p> <p>第5回：トリムバレーボール（1） 基本的なルール説明、パスの基礎練習、ミニゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第6回：トリムバレーボール（2） サーブ・レシーブの基礎練習、ミニゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第7回：トリムバレーボール（3）</p>			

<p>スパイクとブロックの基礎練習、ミニゲーム実践（八木、稲木）</p> <p>第8回：トリムバレーボール（4）</p> <p>これまでの練習で学び、身につけたスキルをゲームに十分に活かす（稲木、八木）</p> <p>第9回：バレーボール（1）</p> <p>基本的なルール説明、パスの基礎練習、ミニゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第10回：バレーボール（2）</p> <p>サーブ・レシーブの基礎練習、ミニゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第11回：バレーボール（3）</p> <p>スパイクとブロックの基礎練習、ゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第12回：バスケットボール（1）</p> <p>基本的なルール説明、ドリブル、パスの基本練習、ミニゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第13回：バスケットボール（2）</p> <p>シュート、ディフェンスの基礎練習、ミニゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第14回：バスケットボール（3）</p> <p>ディフェンスとオフェンスの切り替え練習、ゲーム実践（稲木、八木）</p> <p>第15回：形態・体力測定（2）と全体の振り返り</p> <p>受講後の形態・体力の把握、受講前からの変化の確認、活動全体を通して振り返り（八木・稲木）</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>特に定めない</p> <p>必要に応じて資料を配布</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール練習メニュー200（三枝大地：池田書店） ・バスケットボール練習メニュー200（陸川 章：池田書店）
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート外の提出物 記録用紙 20%</p> <p>活動量（歩数やカロリー）、ゲーム成績、チームとしての取り組み 80%</p>

授業科目名： 生涯スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 稲木 光晴 八木 康夫 担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 個人またはグループで工夫して練習や試合を行い、楽しみながらラケットスポーツの技能向上を図ることができる。</p> <p>2. 自分に合ったペースで、より長い時間ウォーキングやジョギング・ランニングができる。</p> <p>3. 運動の楽しさを知り、運動・スポーツを習慣化できる。</p>			
授業の概要			
<p>運動・スポーツは栄養、休養とともに、健康と体力を支える重要な柱のひとつである。生活の中に運動・スポーツを取り入れることができれば、生涯にわたり健康で活動的なライフスタイルを構築でき、生活の質（QOL）を高く保つことが可能となる。生涯にわたって、健康や体力を維持・増進するために習慣的に行うスポーツが「生涯スポーツ」であり、「だれもが、いつでも、どこでも参加できるスポーツ」である。</p> <p>本実習では、生涯スポーツとして広く親しまれている、卓球、バドミントンの2種目のラケットスポーツとウォーキング・ジョギングを行う。（1）ラケットスポーツにおいては、個人あるいはグループで工夫して練習と試合を行うことによって、楽しみながら技能の向上を図る。（2）ウォーキング・ジョギングにおいては、自分に適したペースを見つけ、実施することによって全身持久力の向上を図る。（3）実習中はカロリーカウンターによって各自の歩数と消費カロリーを把握し、自己の健康管理に役立たせる。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
実習の進め方と評価方法について説明する（稲木、八木）			
第2回：形態・体力測定（1）			
受講前の形態と体力レベルを把握する（稲木、八木）			
第3回：卓球（1）			
基本的なルールの説明、卓球の基本練習、ミニゲーム（シングルス）実践（稲木、八木）			
第4回：卓球（2）			
フォアハンドストローク、サービスの練習、ミニゲーム（シングルス）実践（稲木、八木）			
第5回：卓球（3）			
バックハンドストローク、サービスの練習、ミニゲーム（ダブルス）実践（稲木、八木）			

第6回：卓球（4）

フォアとバックを使い分けたラリーの練習、ミニゲーム（ダブルス）実践（稲木、八木）

第7回：卓球（5）

ダブルスのゲーム実践（稲木、八木）

第8回：バドミントン（1）

基本的なルールの説明、バドミントンの基本練習、ミニゲーム（シングルス）実践（稲木、八木）

第9回：バドミントン（2）

各種ストロークの練習、ミニゲーム（ダブルス）実践（稲木、八木）

第10回：バドミントン（3）

各種ショットの練習、ミニゲーム（ダブルス）実践（稲木、八木）

第11回：バドミントン（4）

各種サービスの練習、ミニゲーム（ダブルス）実践（稲木、八木）

第12回：バドミントン（5）

ダブルスのゲーム実践（稲木、八木）

第13回：ウォーキング・ジョギング

「楽」～「ややきつい」強度でのウォーキング・ジョギング実践（稲木、八木）

第14回：ジョギング・ランニング

「ややきつい」から「きつい」強度でのジョギング・ランニング実践（稲木、八木）

第15回：形態・体力測定（2）と全体の振り返り

受講後の形態・体力の把握、受講前からの変化の確認、活動全体を通して振り返り（稲木、八木）

定期試験は実施しない

テキスト

必要に応じて資料配付

参考書・参考資料等

- ・卓球練習メニュー200（張本 宇：池田書店）
- ・バドミントン練習メニュー200（堂下智寛：池田書店）

学生に対する評価

レポート外の提出物 実習記録用紙 20%

その他 活動量（歩数や消費カロリー）、試合成績、チームとしての取り組み 80%

・これからの健康とスポーツの科学 (安部孝、琉子友男 編：講談社サイエンティフィック)

学生に対する評価

レポート外の提出物 実習記録用紙 20%

その他 活動量 (歩数や消費カロリー)、試合成績、チームとしての取り組み 80%

授業科目名： 英会話入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： Marne Saddy
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>Students will use Japanese translations of vocabulary, language patterns, and sounding natural notes provided in the textbook to study before each class. Then, students will work together to confirm their understanding of the language and practice using substitution drills. Finally, students will consolidate the language by using it in creative situations.</p> <p>学生は、語彙、言語パターン、自然な発音のノートの日本語訳を使って各授業前に学習します。そして、学生は協力して言語の理解を確認し、代入ドリルを使って練習します。最後に、創造的な状況で言語を使用することで、言語を定着させます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>This course is designed to help students develop the "Three Golden Rules" of speaking fluency - never remain silent, give longer answers, and talk about yourself. Students will first learn useful language patterns through controlled speaking practice and sounding natural strategies. Once basic skills are established, students will practice self-expression through creative conversations and free-style communication.</p> <p>流暢に話すための「3つの黄金律」、すなわち沈黙しないこと、より長く答えること、そして自分自身について話すことを学生が習得できるように設計されています。学生は最初に、制御されたスピーキング練習と自然な発音の戦略を通じて有用な言語パターンを学びます。基本的なスキルが確立されると、学生は創造的な会話と自由なコミュニケーションを通じて自己表現を練習します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Let's Get Started! Introducing yourself. 自己紹介をしましょう。</p> <p>第2回：Unit 1 Part 1: Talking about where you're from and where you live now. 出身地と現在の居住地について</p> <p>第3回：Unit 1 Part 2: Talking about school majors and club activities. 学校の専攻とクラブ活動について</p> <p>第4回：Unit 1 Part 3: Talking about part-time jobs.</p>			

<p>アルバイトについて</p> <p>第5回 : Unit 2 Part 1: Talking about daily routines. 日常生活について</p> <p>第6回 : Unit 2 Part 2: Talking about the hardest/Easiest days of the week. 一週間で最も困難な日／最も楽な日について</p> <p>第7回 : Unit 2 Part 3: Talking about how you spend your time. 時間の使い方について</p> <p>第8回 : Unit 1 & 2 Review: Write and Present an original conversation for Unit 1 & 2 ユニット1&2のオリジナル会話を作成して発表する</p> <p>第9回 : Unit 3 Part 1: Talking about your hometown attractions. 地元の観光名所について</p> <p>第10回 : Unit 3 Part 2: Talking about things you like/dislike about your hometown. 地元で好きなこと／嫌いなことについて</p> <p>第11回 : Unit 3 Part 3: Talking about where to live in the future. 将来どこに住みたいかについて</p> <p>第12回 : Unit 4 Part 1: Talking about travel experiences. 旅行経験について (グループ1)</p> <p>第13回 : Unit 4 Part 2: Talking about travel experiences. 旅行経験について (グループ2)</p> <p>第14回 : Unit 4 Part 3: Talking about planning a trip. 旅行計画について</p> <p>第15回 : Unit 1 - 4 Review: Write and Present an original conversation for Unit 1-4. ユニット1~4のオリジナル会話を作成して発表する</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>Conversations in Class (3rd Edition), Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu, Alma Publishing, ISBN 978-4-905343-12-7</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>試験 45%、小テスト 15%、発表 40%</p>

授業科目名： 中国語入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠原 征子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し発音することができる。</p> <p>②基本的な文法を理解し、それを活用して簡単な文章を書くことができる。</p> <p>③基礎の文型を応用して、日本語訳をすることができる。</p> <p>④授業で学んだ表現を話したり聞き取ったりすることができる。</p>			
授業の概要			
<p>中国は国土が広く、56個の民族で構成されているため、南北では、文化はもちろん言葉も相互に外国語に等しい。従って、標準的な正しい発音を身に付けることは特に重要なことである。本授業は、初めて中国語を学習する学生を対象に、先ず正確に現代標準中国語の発音「ピンイン」を習得する。それから、基礎的な語法を学び理解し、初級の日常的な会話表現、挨拶を養成する。また、中国語学習を通じて、異文化や風習などに対する興味・理解を深め、より広い世界観を得られるようになることを期待する。</p>			
授業計画			
第1回：テーマ：中国語の学習について			
授業の概要や目的について説明し、その履修方法、達成の目安、評価の基準を理解する。			
標準中国語の特徴を解説し、簡単な発音練習をする。			
第2回：テーマ：発音編練習（1）			
学習内容：①中国語の構造 ②発音の特徴 ③声調と四声 ④単母音			
第3回：テーマ：発音編練習（2）			
学習内容：①複母音 ②鼻母音			
第4回：テーマ：発音編練習（3）			
学習内容：①子音 ②r化音 ③数字0～99の言い方			
第5回：テーマ：発音編練習（4）			
学習内容：①声調変化 ②“不”と“一”の変調 ③名前の言い方			
第6回：テーマ：第5課			
学習内容：①“是”構文 ②疑問文 ③人称代名詞			
第7回：テーマ：第5課の復習			
学習内容：①第5課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。			

第8回：テーマ：第6課

学習内容：①名前の言い方 ②自己紹介文

第9回：テーマ：第6課の復習

学習内容：①第6課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。

第10回：テーマ：第7課

学習内容：①動詞述語文 ②選択疑問文

第11回：テーマ：第7課の復習

学習内容：①第7課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。

第12回：テーマ：第8課

学習内容：①連動文 ②願望を表す助動詞

第13回：テーマ：第8課の復習

学習内容：①第8課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。

第14回：テーマ：第9課

学習内容：①量詞 ②動詞”有” ③数字の言い方

第15回：テーマ：第9課の復習と前期のまとめ

学習内容：①第9課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。③前期の総合復習を行う。

定期試験

テキスト

実学実用（ライト版）（陳淑梅・劉光赤著、朝日出版社）

参考書・参考資料等

① 標準中国語辞典（上野恵司 著 白帝社）

② 漢語学習辞典（相原茂 著 朝日出版社）

学生に対する評価

試験 50%

小テスト 20%

発表（口頭、プレゼンテーション） 20%

レポート外の提出物 10%

授業科目名： 中国語発展	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 陳 青鳳
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 基礎的な発音をクリアし、ピンインの表記を十分に使いこなせることができる。</p> <p>② 【中国語入門】で習った語法を踏まえ強化し、基本文型を応用することができる。</p> <p>③ 日常的に使用される語彙や構文を増やすことができる。</p> <p>④ 実用性のある会話能力を培うことができる。</p>			
授業の概要			
<p>中国語発展では、【中国語入門】の発音及び基礎構文を学び終えた学生を対象に、勉強の継続性を考えより一層高い聴取力及び会話力を養うことを目標とする。中国語に対し関心を持ち、豊かな表現を楽しみながら語彙と文型を学習する。中国語学習を通じて異文化に対する興味・理解を深める。</p>			
授業計画			
第1回：テーマ：第1課～第9課の総合復習			
学習内容：①四声の声調を正しく発音する。 ②ピンインの記号を正確に表記する。 ③前期で学習した基本的な文法について、自由に運用できているか、復習問題を解きながら再度確認する。			
第2回：テーマ：第10課			
学習内容：①”請”の言い方 ②経験文			
第3回：テーマ：第10課の復習			
学習内容：①第10課で学んだ内容について、正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。			
第4回：テーマ：第11課			
学習内容：①存在文 ②方位詞			
第5回：テーマ：第11課の復習			
学習内容：①第11課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う			
第6回：テーマ：第12課			
学習内容：①年齢の言い方 ②時間詞			
第7回：テーマ：第12課の復習			
学習内容：①第12課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。			

第8回：テーマ：第13課

学習内容：①時間量の言い方 ②前置詞"在"について

第9回：テーマ：第13課の復習

学習内容：①第13課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。

第10回：テーマ：第14課

学習内容：①完了文 ②比較文

第11回：テーマ：第14課の復習

学習内容：①第14課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。

第12回：テーマ：第15課

学習内容：①助動詞 ②方向補語

第13回：テーマ：第15課の復習

学習内容：①第15課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。

第14回：テーマ：第16課

学習内容：①助動詞 ②結果補語 ③主述述語文

第15回：テーマ：第16課の復習と後期のまとめ

学習内容：①第16課で学んだ内容について正しい運用ができているか、確認する。 ②練習問題を解いて、注意点の解説を行う。③後期で学習した単語及び構文の総合復習を行う。

定期試験

テキスト

実学実用（ライト版）（陳淑梅・劉光赤 著 朝日出版社）

参考書・参考資料等

① 標準中国語辞典（上野恵司 著 白帝社）

② 漢語学習辞典（相原茂 著 朝日出版社）

学生に対する評価

試験 50%

小テスト 20%

発表（口頭、プレゼンテーション） 20%

レポート外の提出物 10%

授業科目名： 韓国語入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 韓 京我
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>ハングルの読み書き、挨拶、自己紹介ができる。</p> <p>1. 日常の挨拶、感謝、謝罪などの簡単な決まり文句、返事やあいづちなどを適切に使えるようになる。</p> <p>2. 身近な物事・人を表す単語や表現などを聞いて意味が理解できる。</p> <p>3. 授業で学習した単語や文法を使って書かれた文書を理解し、正しく読んだり、書いたりすることができる。</p>			
授業の概要			
<p>ハングルの文字と発音を少しずつ覚えながら、日常的に用いられる挨拶などの決まり文句や身近な物事について、会話表現を中心に学び、韓国語で簡単なやりとりや自己紹介ができるようになることを目指す。なお、授業は指定の教科書を中心に進めるが、受講生の理解を助けるため、補充資料や練習用プリントを用いることがある。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>韓国語とハングルの概要</p> <p>第1課 基本母音字、ヤ行の母音字</p> <p>第2回：第2課 基音子音字、出会いの挨拶</p> <p>第3回：第3課 濁る子音字、別れの挨拶</p> <p>第4回：第4課 激音の子音字、日本語のハングル表記法</p> <p>第5回：第5課 つまる子音字（濃音）、尋ねる・答える</p> <p>第6回：第6課 ワ行の母音字、ハングル表で練習、感謝Ⅰ</p> <p>第7回：第7課 パッチム、感謝Ⅱ</p> <p>第8回：第1～7課の主要学習内容について復習 中間テスト（文字読み取りテスト）</p> <p>第9回：第8課 プレゼント、何、感嘆表現、連音化</p> <p>第10回：第8課 名詞文～です、人の呼び方</p> <p>第9課 謝罪、発音のルール</p> <p>第11回：第9課 「ㅎ」の発音、鼻音化、激音化</p> <p>第10課 自己紹介、1人称代名詞、～は、</p> <p>第12回：第10課 ～は<疑問詞>ですか？ 会話練習</p>			

第13回：自己紹介・挨拶・会話テスト

第14回：第11課 日付、激音化、月日の言い方、韓国の記念日

第15回：第8～11課の主要学習内容について復習 全体的なまとめ

定期試験

テキスト

長谷川由紀子 著 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう I』 白帝社

参考書・参考資料等

随時紹介します。

学生に対する評価

試験 定期試験 50%、小テスト 15%、発表（口頭、プレゼンテーション） 15%

レポート外の提出物 10%、その他 平常点（授業への参加度、受講態度） 10%

授業科目名： 韓国語発展	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 韓 京我
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>簡単な文章を書くことができ、韓国語で質問し、その答えを聞き取り、自分の一日の行動が話せる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習した決まり文句や返事・あいづちを適切に使えるようになる。 2. 自分や相手に関する事柄について、簡単な会話ができる。 3. 授業で学習した単語や文法を使って書かれた文章を理解し、正しく読んだり、書いたりすることができる。 			
授業の概要			
<p>韓国語入門で学習したことをベースに、韓国語の単語や身近な事柄について会話表現を中心に学び、自己表現とともに他者理解ができるようになることを目指す。なお、授業は指定の教科書を中心に進めるが、受講生の理解を助けるため、補充資料や練習用プリントを用いることがある。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業の進め方及び評価方法について 韓国語入門での主要学習事項について復習 第12課 所属と学年</p> <p>第2回：第12課 何の～、学年の言い方、～も 第13課 サークル</p> <p>第3回：第13課 하다用言、～を、好みの表現</p> <p>第4回：第14課 持ち主、指し示す言葉、所有・所属表現</p> <p>第5回：第14課 名詞文の否定 第15課 存在、ある・いる/ない・いない</p> <p>第6回：第15課 二重パッチムの発音、해요体（-ます/です）、～に</p> <p>第7回：第16課 年齢、年齢の言い方、～ですね、～で</p> <p>第8回：第12～16課の主要学習内容について復習 中間テスト（会話テスト・筆記テスト）</p> <p>第9回：第17課 関心と好きなもの、琉音化、～が、～と</p> <p>第10回：第17課 丁寧化の語尾 -요/이요、～（し）て 第18課 日常のおこない</p>			

第11回：第18課 否定表現、해요体の縮約形、～けれども、～で

第12回：第18課 「나의 하루 私の1日」を作文

第19課 過去のできごと

第13回：「나의 하루 私の1日」を発表

第14回：第19課 過去の해요体、過去の해요体の縮約形、～(し)に

第15回：第17～19課の主要学習内容について復習 全体的なまとめ

定期試験

テキスト

長谷川由紀子 著 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう I』 白帝社

参考書・参考資料等

随時紹介します。

学生に対する評価

試験 50%、小テスト 15%、発表（口頭、プレゼンテーション）15%

レポート外の提出物 10%、その他 平常点（授業への参加度、受講態度） 10%

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：古川 洋章 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 数値データを読み解き、データが持つ特性を正しく理解している。</p> <p>2. グラフデータを読み解き、グラフが示す意味を正しく理解している。</p> <p>3. 得られたデータより、どの要素が関連するかを考え、関係性を導き出すことができる。</p>			
授業の概要			
<p>現在、社会のデータ化が著しく、第4次産業革命やSociety 5.0、データ駆動型社会などと呼ばれる変化が起こっています。我々の日常生活においても、様々なものがデータ化され、広範囲に利用されている状況にあります。このデータの活用は、データサイエンスやAIなどの技術を用いることによって、流通や製造、サービス、ヘルスケアなどの様々な分野で行われていて、我々の生活から切っても切り離せない密接なものとなっています。</p> <p>そこで、近年の社会状況の変化とデータサイエンスやAIに関する技術等の基礎を学び、これらの技術が日常生活や社会における課題を解決するために有効な技術であること、ならびに技術に伴う危険性と注意すべき点を理解し、データの適切な活用法を習得することが求められています。</p> <p>本授業では、データサイエンスやAIなどの技術を理解するための基盤となる知識について、オンデマンド形式で学びます。</p> <p>理解度の確認については、授業毎に実施する小テストと、学期末に実施する試験にて行います。</p>			
授業計画			
<p>第1回：【オリエンテーション・データサイエンスを学ぶ意義】</p> <p>本授業の概要およびデータサイエンス教育がなぜ必要なのかについて学習する。</p> <p>第2回：【データサイエンスと社会】</p> <p>データサイエンスを学ぶ上で理解すべき社会で起きている変化について学習する。</p> <p>第3回：【AIと社会】</p> <p>データの種類、データ・AIの活用領域について学習する。</p> <p>第4回：【データ・AIの利活用とその必要性】</p> <p>データサイエンスやAIに関する技術の概要、生まれている価値について学習する。</p> <p>第5回：【データ・AIの利活用の最新動向】</p> <p>データサイエンスやAIに関する技術のビジネスモデル、および利活用（導入）の方法について学習す</p>			

る。

第6回：【数値データの読み方（1）】

データの種類、代表値、ばらつきについて学習する。

第7回：【数値データの読み方（2）】

母集団、区間推定について学習する。

第8回：【数値データから何が読み取れるか】

標準化、正規化について学習する

第9回：【グラフの読み方(1)】

度数分布表、ヒストグラムについて学習する。

第10回：【グラフの読み方(2)】

円グラフ、折れ線グラフ、散布図について学習する。

第11回：【要因比較のための集計】

クロス集計、カイ二乗検定について学習する。

第12回：【2要因間における関係性】

相関と因果について学習する。

第13回：【2要因間の関係から予測へ】

回帰分析について学習する。

第14回：【データサイエンス・AIは万能か】

個人情報、データ倫理、AI社会原則、留意事項について学習する。

第15回：【まとめ】

本授業で学習した内容についてまとめる。

定期試験

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

なし。必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

試験 50%

小テスト 50%

授業科目名： データサイエンス演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 古川 洋章
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. データを表計算ソフトを用いて分析し、データがもつ特性を明らかにすることができる。</p> <p>2. データを表計算ソフトを用いてグラフ形式へ加工し、視覚的に明らかにすることができる。</p> <p>3. 得られたデータより、どの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。</p>			
授業の概要			
<p>現在、社会のデータ化が著しく、第4次産業革命やSociety 5.0、データ駆動型社会などと呼ばれる変化が起こっています。我々の日常生活においても、様々なものがデータ化され、広範囲に利用されている状況にあります。このデータの活用は、データサイエンスやAIなどの技術を用いることによって、流通や製造、サービス、ヘルスケアなどの様々な分野で行われていて、我々の生活から切っても切り離せない密接なものとなっています。</p> <p>そこで、近年の社会状況の変化とデータサイエンスやAIに関する技術等の基礎を学び、これらの技術が日常生活や社会における課題を解決するために有効な技術であること、ならびに技術に伴う危険性と注意すべき点を理解し、データの適切な活用法を習得することが求められています。</p> <p>本授業では、表計算ソフトの「Microsoft Excel」を用いて、データを分析し適切に利活用する手法についてオンデマンド形式で学びます。</p> <p>理解度の確認については、授業毎に実施する小テストと、学期末に実施する試験にて行います。</p>			
授業計画			
第1回：【オリエンテーション・表計算ソフトの確認】			
本授業の概要および授業で使用するMicrosoft Excelについて確認する。			
第2回：【表計算ソフトの使い方(1)】			
Microsoft Excelによる計算・関数の利用方法について学習する。			
第3回：【表計算ソフトの使い方(2)】			
Microsoft Excelによるグラフの作成方法について学習する。			
第4回：【データと代表値】			
Microsoft Excelによるデータの代表値の計算方法について学習する。			
第5回：【分散と標準偏差】			

Microsoft Excelによる分散と標準偏差の計算方法について学習する。

第6回：【母集団と区間推定】

Microsoft Excelによる母集団と区間推定の計算方法について学習する。

第7回：【標準化と正規化】

Microsoft Excelによる標準化および正規化の計算方法について学習する。

第8回：【度数分布表とヒストグラム】

Microsoft Excelによる度数分布表およびヒストグラムの製図方法について学習する。

第9回：【四分位数と箱ひげ図】

Microsoft Excelによる四分位数の計算および箱ひげ図の製図方法について学習する。

第10回：【クロス集計およびカイ二乗検定】

Microsoft Excelによるクロス集計およびカイ二乗検定について学習する。

第11回：【相関分析と散布図】

Microsoft Excelによる相関分析の方法と散布図の製図方法について学習する。

第12回：【回帰分析】

Microsoft Excelによる回帰分析の方法について学習する。

第13回：【実データを使った分析】

オープンデータを用いて、実データの分析手法について学習する。

第14回：【AIを用いたデータの利活用】

生成AIの利用方法や注意点について学習する。

第15回：【まとめ】

本授業で学習した内容についてまとめる。

定期試験

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

なし。必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

試験 50%

小テスト 50%

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 政伸
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学的、思想的な人間理解をすることができる。 ・教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ・子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 ・性、ジェンダー、LGBT など性を通しての人間理解ができる。 ・家族と社会による教育の歴史を理解している。 ・近代教育制度の成立と展開を理解している。 ・現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ・家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 ・学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ・代表的な教育家の思想を理解している。 ・人権の観点から教育を捉えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>人間、子ども、性といった教育の前提になる要素について検証し、家族、学校そして社会という教育環境とその理論及び課題について哲学的歴史的に思考の根拠を身につける</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「教育」とは何か—可能性と必要性—</p> <p>第2回：「子ども」とは何か—「子ども」の描かれ方から見る—</p> <p>第3回：「子どもの発見」—ルソー『エミール』の意義</p> <p>第4回：家族と母性の歴史</p> <p>第5回：日本の伝統的子育て</p> <p>第6回：子どもと遊び—フレーベルの思想と現代の遊び—</p> <p>第7回：「学校」とは何か—自主夜間中学校での学びから—</p> <p>第8回：世界の学校—さまざまな学校の制度—</p> <p>第9回：「学校」を考える</p> <p>第10回：学校に通うことの意味</p> <p>第11回：義務教育の成立</p> <p>第12回：国民国家と教育制度</p> <p>第13回：学校文化を考える—身体技法と近代—</p> <p>第14回：学校と多様性—障がい児の就学問題—</p> <p>第15回：学修のまとめと確認</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小国喜弘『戦後教育史』中公新書</p>			

学生に対する評価
小テスト4回と課題への提出物によって評価する。

授業科目名：教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 政伸
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目 区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ・教師として必要な倫理について理解している。 ・幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の庶務の全体像を理解している ・教員研修の意義及び制度上の位置づけ並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 ・校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 ・幼児、児童及び生徒を取り囲む社会環境を理解し、教師として取り組む姿勢を理解している。 ・あらゆる場面、状況において教師に必要な危機管理能力について理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>教職のあり方について、その歴史的経緯、倫理・資質、法的位置づけ、求められる職務内容（チーム学校への対応を含む）、危機管理意識などを概観する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教師に必要なもの—授業を構想してみる—</p> <p>第2回：体験した教師を振り返る</p> <p>第3回：教師の服務—教育基本法、学校教育法、教師の倫理など—</p> <p>第4回：教師の服務—研修と採用をめぐる法律—</p> <p>第5回：教員養成の歴史—戦前の教員養成制度—</p> <p>第6回：教員養成の歴史—戦後の教員養成制度—</p> <p>第7回：女性教師と養護教諭の歴史</p> <p>第8回：教師の仕事（1）命の授業</p> <p>第9回：教師の仕事（2）夜間中学の教師</p> <p>第10回：教師の仕事（3）院内学級の教師</p>			

第11回：教師の仕事（4）不登校対応専任教員

第12回：教師の仕事（5）栄養教諭・司書教諭

第13回：チーム学校—スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーほか—

第14回：チーム学校—課外活動の地域・外部指導者

第15回：近年の教員の労働をめぐる社会状況

定期試験は実施しない

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」

中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」

学生に対する評価

小テストと第8回から14回までのミニレポートで評価する。

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉谷 修一
			担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目 区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育社会学の学問的特徴と意義について理解することができる。 (2) 現代日本の教育及び学校の現状と課題を理解することができる。 (3) 子どもの社会的発達について、社会化論の観点から理解することができる。 (4) 家族・地域・仲間集団・学校など主要な社会化の場について、近世・近代と現代日本の比較を通じて理解することができる。 (5) 現代社会の変化を背景とした子どもの生活の変化とその問題点について理解することができる。 (6) 教育にとって学校と地域が連携・協働する意味とその具体的方法について理解することができる。 (7) 諸外国の教育のあり方について、日本と比較しながら理解することができる。 (8) 学校安全の必要性及び安全管理や安全教育にどのように取り組むか理解できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育現象を社会学の方法で分析する教育社会学は、子どもの社会的発達のような社会的行為レベルに関連するものから、社会変動や教育制度のようなマクロな領域まで幅広く研究する。この講義では教育社会学の基本的特徴を学び、社会化論を主要な概念として用いながら、教育の現代的課題について多角的に学ぶ。さらに学校と外部との連携・協働、学校安全への取り組み、諸外国の教育動向の紹介など、特に重要性を増している諸問題を解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育社会学とは何か：教育社会学の学問的特徴とその意義について学び、対象となる教育現象の現状と課題について理解する。</p> <p>第2回：社会化論の基礎：社会化及び関連する諸概念について整理し、子どもの社会的発達を把握する方法について理解する。</p> <p>第3回：社会化の場としての家族（1）家族の構造と機能：家族社会学における主要な家族モデルを通じて家族を把握する方法について理解する。</p>			

第4回：社会化の場としての家族（2）現代家族の特徴と課題：少子高齢化や家族機能の変化がもたらす社会化環境の変化と問題点について理解する。

第5回：社会化の場としての仲間集団（1）仲間集団の構造と機能：第一次集団としての仲間集団に関する主要な理論を理解する。

第6回：社会化の場としての仲間集団（2）現代の仲間集団の特徴：三間の減少に代表される自由な遊び環境の変化について理解する。

第7回：社会化の場としての地域（1）村落共同体での社会化：子供組や若者組など村落共同体での社会化のあり方について理解する。

第8回：社会化の場としての地域（2）現代における地域での子育て：地域社会の変質や解体が子どもの社会化環境にどのような影響を与えているのかを理解する。

第9回：社会化の場としての学校（1）近代公教育の登場：社会化の専用空間としての学校が登場した背景について理解する。

第10回：社会化の場としての学校（2）地域・家庭との関係：学校教育が地域や家庭との間にどのような関係をもっているのかを歴史的経緯及び現代的課題から理解する。

第11回：現代日本の教育政策：社会システムにおける教育政策の位置づけを学ぶとともに、現代の教育政策の基本的動向について理解する。

第12回：諸外国の教育動向：日本の教育事情と比較しながら、社会的文化的背景の違いが生み出す教育のあり方について理解する。

第13回：子どもの現代的様相：少子化、SNSなどニューメディアによるコミュニケーション様式の変化といった現代的課題について理解する。

第14回：学校安全：学校安全の各領域について学び、安全管理や安全教育への取り組みについて理解する。

第15回：まとめ：これまでの学習内容を踏まえ、社会システム全体に教育を位置づけて考察することの意義と教師としてその知見を生かすための方法について理解する。

定期試験

テキスト

住田正樹・高島秀樹編著『変動社会と子どもの発達：教育社会学入門 第3版』北樹出版

参考書・参考資料等

文部科学省「世界の学校体系（ウェブサイト版）」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/detail/1396836.htm

文部科学省「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」

荻谷剛彦『学校って何だろう 教育の社会学入門』ちくま文庫

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書

学生に対する評価

定期試験の評価（100%）。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水貝（片岡） 洵子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目 区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)心身の発達に関する諸理論について説明することができる。</p> <p>(2)乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、説明することができる。</p> <p>(3)記憶や知識、動機づけなどの学習に関連する心理学の諸理論を用いて、人の学習過程について説明することができる。</p> <p>(4)学級集団の特徴や集団内の相互作用について、心理社会的な視点から説明することができる。</p> <p>(5)教育効果の測定と評価の方法について説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学は、教育活動を心理学の立場から研究し、より効果的な教育活動を行うために、新たな知見や技法を提供する心理学の一分野である。</p> <p>本講義では、人の発達および学習活動を心理学の視点から解説する。具体的には、人の発達では、有名な発達理論を紹介するとともに、乳幼児期から青年期にかけての運動、言語、認知、社会性の各領域における発達過程を取り上げる。また、学習活動については、記憶、知識、動機づけ、学級集団に対する理解、教育評価について取り上げる。本講義は、適宜、個人ワークやグループワークを取り入れながら展開される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：テーマ「オリエンテーション」：本講義の進め方などについて説明する。また、教育心理学とはどのような学問であるかについて解説する。</p> <p>第2回：テーマ「運動発達」：乳幼児期から児童期までの運動発達について、発達の原理原則に関する諸理論を紹介ながら、解説する。</p> <p>第3回：テーマ「言語発達・認知発達」：乳幼児期から青年期にかけての言語発達および認知発達の過程について解説する。そのなかで、ピアジェの発達理論などについても紹介する。</p> <p>第4回：テーマ「社会性の発達」：乳幼児期から青年期にかけての社会性の発達について解説する。そのなかで、道徳性に関する発達理論であるコールバーグやアイゼンバーグらの理論についても紹介する。</p> <p>第5回：テーマ「思春期・青年期の発達」：これまでの学習内容では触れられなかったアイデンティティの発達や友人関係の発達について取り上げる。</p>			

<p>第6回：テーマ「個性の理解」：パーソナリティに関する諸理論や測定方法、知能に関する諸理論や測定方法について解説し、児童生徒の個別性の視点を捉える視点について紹介する。</p> <p>第7回：テーマ「学習理論」：心理学における学習の定義を確認した後、新たな行動の獲得と変容のためのメカニズムについて解説する。</p> <p>第8回：テーマ「記憶」：記憶の基本的な働きや記憶・忘却の過程、記憶の分類について解説する。</p> <p>第9回：テーマ「知識」：知識の分類や記憶の方略方法について解説する。</p> <p>第10回：テーマ「学習方法」：様々な学習方法における学びの過程や特徴について解説する。</p> <p>第11回：テーマ「動機づけ」：動機づけに関する要因について解説し、児童生徒のやる気を育む対応について検討する。</p> <p>第12回：テーマ「学級集団に対する理解」：学級集団の様相や機能、集団内における対人相互作用に関する要因とその影響について解説する。</p> <p>第13回：テーマ「教育評価1」：評価の方法について紹介する。また評価基準や評価時期などが評価に与える影響について解説する。</p> <p>第14回：テーマ「教育評価2」：評価に用いる統計の基礎について解説する。</p> <p>第15回：テーマ「まとめ」：これまでの学習内容の振り返りを行う。</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>指定なし。毎回レジュメを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「ガイドライン学校教育心理学…教師としての資質を育む」大野木裕明他著 ナカニシヤ出版 「教育心理学」市川優一郎・宇部弘子・若尾良徳・齋藤雅英 編著 中山書店</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>試験（70％）レポート（30％）</p>

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金田 孝一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分または事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ 様々な障害等により特別の支援を必要とする児童生徒の理解と支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育の理念や障害の考え方について説明できる。 2 特別の支援を必要とする児童生徒の障害の特性や心身の発達について説明できる。 3 特別な教育的ニーズのある児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、支援のあり方について説明できる。 4 インクルーシブ教育システムと多様な学びの場、教育課程について説明できる。 5 校内体制や関係機関・家庭と連携する支援について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>最初に、特別支援教育の理念や障害の考え方などについて概観する。次に、様々な障害等により特別の支援を必要とする児童生徒について、その障害の状態や特性等を理解し、適切な支援方法を見出せるように学習を進める。最後に、多様な学びの場と教育課程について理解するとともに、関係機関等とも連携するなど、特別の支援を組織的・継続的に行うために必要な知識を扱う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「特別支援教育の考え方」 特別支援教育の理念、特殊教育から特別支援教育への転換、学習指導要領と特別支援教育</p> <p>第2回：「インクルーシブ教育システムの構築」 障害者の権利に関する条約、障害者差別解消法、合理的配慮、障害の理解と考え方</p> <p>第3回：「特別の支援を必要とする子ども1」 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由の理解と支援</p> <p>第4回：「特別の支援を必要とする子ども2」 知的障害、病弱、言語障害、情緒障害の理解と支援</p> <p>第5回：「特別の支援を必要とする子ども3」 自閉症、ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）など、発達障害の理解と支援</p> <p>第6回：「多様な学びの場と教育課程」 小学校（通常の学級、通級による指導、特別支援学級）と特別支援学校、 自立活動を位置付ける特別の教育課程</p> <p>第7回：「特別支援教育の推進体制」 特別支援教育コーディネーターや校内委員会、個別の教育支援計画と個別の指導計画、 関係機関や保護者との連携</p>			

第8回：「障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもの理解」

母国語や貧困等の問題の理解と対応

授業のまとめ

定期試験は実施しない

テキスト

大塚玲編著 『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための 特別支援教育入門』 萌文書林

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領』、『小学校学習指導要領解説 総則編』、『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』、『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』、いずれも最新版

学生に対する評価

授業中の課題（30%）、予習課題（30%）、まとめの課題（40%）

教職に関する科目：シラバス

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 政伸・松本和寿
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 教育課程の意義と役割、編成の基本原理を説明することができる。</p> <p>② 日本における教育課程編成、カリキュラム開発の変遷について説明することができる。</p> <p>③ 学習指導要領の意義、歴史的変遷について理解している。</p> <p>④ 現在の教育課程の課題を理解し、学校教育全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>教育課程編成の基本原理とカリキュラムの発展的理論を学び、さらにカリキュラム設計の基本的な方法の習得をめざす。そして具体的に学習指導要領の成立から変遷をみることをとおして、主たる改訂内容と社会背景を把握し、現行の学習指導要領の内容を理解した上でカリキュラム・マネジメントの重要性について考察を深める。</p>			
授業計画			
第1回：教育課程の役割、機能、意義（木村）			
第2回：教育課程の編成原理—課程主義と年齢主義—（木村）			
第3回：学校創設期の教育課程（木村）			
第4回：教育課程の変遷—作文教育から—（木村）			
第5回：教育課程の変遷—大正新教育から—（木村）			
第6回：戦時下から戦後への教育課程改革（木村）			
第7回：学習指導要領の成立（松本）			
第8回：経験主義カリキュラムを考える（松本）			
第9回；経験主義カリキュラムの効果と課題—戦後新教育批判の論理—（松本）			
第10回；学習指導要領の変容—「ゆとり」教育までの流れ—（松本）			
第11回；特別活動の変容—生徒会と校則を考える—（木村）			
第12回；顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム（木村）			
第13回；カリキュラム・マネジメント—スコープとシークエンス—（木村）			
第14回：教科・領域を横断した教育内容の編成方法とカリキュラム評価（木村）			

教職に関する科目：シラバス

第15回：令和の日本型教育を考える（木村）
定期試験は実施しない
テキスト
平成29年3月改訂学習指導要領（中学校・小学校）
参考書・参考資料等
講義中に紹介・配布する
学生に対する評価
小テスト及び授業での提出物から評価する

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：杉谷 修一
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳の理論及び指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間社会にとって道徳がもつ意味について理解できる。 (2) 道徳教育の歴史及び現代社会における課題について理解できる。 (3) 発達段階に応じて道徳性のあり方をとらえ、適切な指導と結びつけることができる。 (4) 学校教育における道徳教育の位置づけを理解することができる（教育法規、学習指導要領、個別の学校教育計画などの関連性の理解を含む）。 (5) 道徳科の授業の基礎的理解に基づく授業の実践力を身につける（指導方法、教材研究、評価方法などを含む） (6) 道徳科の授業について学習指導案を作成することができる。 (7) 模擬授業など授業実践を通じた授業改善をP D C Aの観点から理解することができる。 (8) 授業のねらい・対象特性・教材の相互関連から適切な教育方法を設定する具体的手順について、様々な授業実践例を参照しながら理解することができる。 (9) 身近な生活や経験から道徳教育のテーマを導出し、授業研究と結びつけることができる。 (10) 学習指導案づくりの基本を知り、各自が設定したテーマに基づいた学習指導案を作成することができる。 (11) 自分の学習指導案に従い、模擬授業を実践することができる（模擬授業担当者のみ）。 (12) 模擬授業を題材として討論を通じて、道徳教育への認識及び授業作り・実践への理解を深める。 			
<p>授業の概要</p> <p>人間社会にとって普遍的かつ本質的な課題である道徳は、学校現場において重要な教育実践として要請されている。この授業では道徳とは何かという本質的な問いに始まり、現代社会における道徳的課題を知ることから始める。次に学校教育における道徳教育の歴史的経緯と現時点での位置づけを理解する。さらに道徳教育の実践的な指導の在り方を主として授業実践の観点から身につけることを最終的な目標とする。道徳教育についての学習は学生自身が道徳的課題について深く思いをめぐらせることを基盤とし、その上で学習指導案の作成や発問・指示・評価など具体的な方法と結びつけることが求められている。</p>			

授業計画

第1回：道徳とは何か：道徳とは何かという本質について理解する。

第2回：道徳教育の歴史的展開：これまでの道徳教育の歴史を知るとともに、現代社会における重要な道徳的課題について理解する。

第3回：道徳性の発達：子どもの道徳性の発達に関する主要な理論について理解する。

第4回：学校教育における道徳教育の位置づけ：教育法規並びに学習指導要領における道徳教育の位置づけについて理解する。

第5回：学校現場における道徳教育の位置づけ：第4回で学んだものがそれぞれの学校現場の実情や課題に応じて展開する様子を、学校教育計画や道徳指導計画を通じて理解する。

第6回：授業としての道徳教育（1）学習指導案の構造：道徳科の学習指導案の基本的構造を学ぶ。

第7回：授業としての道徳教育（2）教材研究：読み物教材や実物教材、データの読み取りから動画の活用まで多様な教材の特徴を知り、教材研究の基本を身につける。

第8回：授業としての道徳教育（3）指導方法：授業の主題・児童生徒のあり方・教材を有機的に結びつけるものとしての教育方法の意義を知り、基本的な方法論を理解する。

第9回：授業としての道徳教育（4）授業の実践技術：表情、発声、発問、指示、板書など教師としての基本的な授業実践に関する技術を理解する。

第10回：授業としての道徳教育（5）主題設定：授業の根幹である主題の意味を理解し、(1)から(4)までの内容が主題を焦点として展開する過程を理解する。

第11回：道徳教育における評価：道徳教育における評価の特徴を学び、具体的な評価のあり方並びにその活用方法について理解する。

第12回：学習指導案を作ってみよう（1）：これまでの学習内容を踏まえ、学生が各自で学習指導案を作成し、講義内で簡単な添削やアドバイスを行う。対象学年・主題・教材までを対象とする。

第13回：学習指導案を作ってみよう（2）：前回の内容について、1時間分の授業展開を作成する。講義内で簡単な添削やアドバイスを行う。

第14回：模擬授業と振り返り（1）：希望者による模擬授業を行い、児童・生徒役からの感想や意見をもとに、振り返りを行う。また授業実践者・児童生徒役全員で討論を行う。

第15回：模擬授業と振り返り（2）：希望者による模擬授業を行い、児童・生徒役からの感想や意見をもとに、振り返りを行う。前回の内容と合わせて、振り返り作業を授業改善のPDCAとして活用できることを理解する。

定期試験は実施しない

テキスト

特に指定しない。授業中にレジュメやスライド資料等を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説：特別の教科 道徳」平成29年3

月公示

文部科学省「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説：特別の教科 道徳編」平成29年7月

浅見哲也『道徳科 授業構想グランドデザイン』明治図書

学生に対する評価

レポート（学習指導案）100%

教職に関する科目：シラバス

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大庭 正美 担当形態：単独
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目 区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 学習指導要領及び教育課程における特別活動の位置付けと意義について理解できる。</p> <p>(2) 学級活動・ホームルーム活動・児童会活動・生徒会活動・クラブ活動・学校行事の特質を理解できる。</p> <p>(3) 特別活動と生徒指導の関連について理解できる。</p> <p>(4) 役割活動の意義について理解できる。</p> <p>(5) 特別活動の評価・改善方法に意義を理解できる。</p> <p>(6) 意思決定・合意形成に向けた特別活動の指導の在り方について理解できる。</p> <p>(7) 家庭・地域住民・関係諸機関との連携・協働の在り方について理解できる。</p> <p>(8) 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。</p> <p>(9) 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>(10) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解している。</p> <p>(11) 評価改善の方法論としてのP D C Aサイクルの基礎及び具体的なマネジメントの方法について理解することができる。</p> <p>(12) 集団構造理解の方法を学び、それにもとづく集団指導の在り方を理解することができる。</p> <p>(13) 総合的な学習の時間の指導について、探究的な学習を実現するための具体的な取り組みを知り、その意義と方法を理解することができる。</p> <p>(14) 総合的な学習の時間の単元計画を「主体的・対話的で深い学び」の観点から理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動の教育課程上の特質と目標、内容、指導方法等に関する理解を深めるための講義を中心にしつつ、歴史的変遷や今日的意義を踏まえ、各学校段階における具体的な取組事例等に</p>			

教職に関する科目：シラバス

についての分析的な考察を行うなど実践的な指導力を身につける授業を行う。また、総合的な学習の時間の意義並びに学習指導要領における位置付けを理解するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導計画の作成や評価の在り方についても学ぶ。

授業計画

第1回：特別活動の歴史：特別活動の歴史の変遷について解説する。

第2回：特別活動の基本的性格と教育的意義：学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容の理解を通じて、その基本的性格と教育的意義を知る。

第3回：教育活動と各教科等の関連：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等の関連について考察する。

第4回：学級活動・ホームルーム活動：学級活動及びホームルーム活動の意義と指導の在り方について考察する。

第5回：児童会・生徒会活動：児童会及び生徒会活動の意義と指導の在り方について考察する。

第6回：クラブ活動：クラブ活動の意義と指導の在り方について考察する。

第7回：学校行事：学校行事の意義と指導の在り方について考察する。

第8回：特別活動における合意形成と意思決定：個人意思決定と集団の合意形成にとって集団活動の持つ意義を知り、具体的な指導の在り方について考察する。

第9回：特別活動の全体計画：教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方について考察し、全体計画の作成方法について学ぶ。

第10回：特別活動の年間指導計画：特別活動の年間指導計画について考察し、その作成方法について学ぶ。

第11回：特別活動における評価・改善の取組：特別活動をP D C Aサイクルに位置付け、指導の向上・充実を図る意義について考察する。

第12回：特別活動における連携・協働：特別活動における家庭、地域、関係諸機関等との連携・協働の在り方について考察する。

第13回：総合的な学習の時間の意義と計画：学習指導要領における位置付けと意義について学び、各学校において目標・内容を定める際の留意点について考察する。

第14回：総合的な学習の時間の指導計画：各教科等との関連性を踏まえた年間指導計画の立案の事例を検討し、主体的・対話的で深い学びを目指す単元計画の在り方について考察する。

第15回：総合的な学習の時間の指導及び評価：総合的・探究的な学習について、学習過程や具体的・実践的な指導法、学習評価の方法を考察する。

定期試験

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

教職に関する科目：シラバス

参考書・参考資料等

文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」平成29年3月告示

文部科学省「高等学校学習指導要領」平成30年3月告示

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」平成29年6月

文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」平成29年7月

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」平成30年3月

文部科学省「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」平成29年6月

文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」平成29年7月

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」平成30年3月

学生に対する評価

試験（60%）、レポート（20%）、提出物（10%）、その他（10%）

教職に関する科目：シラバス

授業科目名： 教育方法論（ICT活用を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 江藤 真美子・山田 政寛
			担当形態：オムニバス
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分または事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 ・これからの社会を担う子供たちの求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 ・学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。 ・学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ・話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 ・基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 ・子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器等を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ・子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。 ・授業案に基づいて実際の発問などができる。 ・他人の授業を見て評価することができる。 			
授業の概要 教育方法についての基本原理及び基礎理論を学び、最近の教育改革における教育方法及び技術について解説し、実際に有用な学習指導案を作成させる。			
授業計画 第1回：教育方法の基礎理論（1）前近代の教育方法と教師の専門性（担当：江藤） 第2回：教育方法の基礎理論（2）個別最適な学びと協働的な学び（担当：江藤） 第3回：教育方法の基礎理論（3）子ども理解と特別支援教育におけるICT活用（担当：江藤） 第4回：ICT活用の理論と実践（1）ICT活用型教育・学習環境に関する基礎理論：教育観・学習観の変化（担当：山田） 第5回：ICT活用の理論と実践（2）教師に求められるICTを活用するための資質・能力（担当：山田） 第6回：ICT活用の理論と実践（3）ICTを活用した教材研究の技法（担当：山田） 第7回：授業設計と実践（1）「よい授業」とは何か―授業を評価するとはどういうことか―（担当			

教職に関する科目：シラバス

<p>：江藤)</p> <p>第8回：ICT活用の理論と実践（4）遠隔・オンライン授業の意義と使用法（担当：山田）</p> <p>第9回：授業設計と実践（2）指導技術（説明・質問・板書・グループ活動）（担当：江藤）</p> <p>第10回：ICT活用の理論と実践（5）ICTを利用した教育評価と学習履歴の活用（担当：山田）</p> <p>第11回：ICT活用の理論と実践（6）児童生徒によるICT活用（情報機器の操作・情報活用能力・情報モラル・情報セキュリティ）（担当：山田）</p> <p>第12回：授業設計と実践（3）授業計画と学習指導案（担当：江藤）</p> <p>第13回：ICT活用の理論と実践（7）ICTを活用した模擬授業と相互評価（担当：山田）</p> <p>第14回：ICT活用の理論と実践（8）ICTを活用した校務推進とICT環境の整備（担当：江藤・山田）</p> <p>第15回：授業設計と実践（4）教育方法論の統合と展望、まとめ（担当：江藤）</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編</p> <p>教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月) 文部科学省</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>本田由紀：『教育は何を評価してきたのか』岩波新書</p> <p>稲垣忠・佐藤和紀（編著）：『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして』北大路書房</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>学習指導案提出20点、模擬授業発表20点、課題レポート30点、授業に対する取り組み10点、リフレクション小論文20点で合計100点とする。</p>

教職に関する科目：シラバス

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秋山 俊史・藤 勝宣
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の意義とあり方を学校組織や学校経営に位置づけて理解することができる。 (2) 教育課程の各領域における生徒指導の意義を理解することができる。 (3) 生徒指導の基本的な構造と方法を理解することができる。 (4) 生徒指導上の課題を理解することができる。 (5) 校則・懲戒・体罰等について法令の内容を理解することができる。 (6) 生徒指導の今日的課題について理解することができる。 (7) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 (8) ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育について理解することができる。 (9) カウンセリングとしての進路指導・キャリア教育について理解することができる。 (10) 基礎的生活習慣の確立及び規範意識の醸成の意義について理解することができる。 (11) 生徒指導の基盤となる自己有用感の養成の意義とその具体的方法について理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>いじめ、不登校、暴力行為といった子ども達の問題行動への対応が生徒指導であるという理解が一般的であるが、生徒指導はより広く、積極的な役割を期待されている。根底には児童生徒等の人格の尊重や個性の伸長への取り組みがあり、その上に社会の一員としての資質や行動力を高めて行くという学校教育の最も重要な機能を果たすものである。本講義では法令の理解から具体的取り組み事例の紹介まで幅広く学びながら、生徒指導に関する理解を深めていく。</p> <p>また、児童生徒が長期的な視野に基づいて進路選択・計画を行うことができるよう、ガイダンスやカウンセリングを充実させることが求められおり、その意義を理解し、具体的な取り組みの在り方について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の意義と役割：生徒指導の教育課程における位置付け並びに各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における意義を理解する。(秋山)</p>			

教職に関する科目：シラバス

第2回：生徒指導の方法論：生徒指導における集団指導及び個別指導の特徴と意義について理解する。(秋山)

第3回：生徒指導と教育相談：生徒指導と教育相談それぞれの特徴と機能並びに両者の関連生について理解する。(秋山)

第4回：校務分掌から考える生徒指導：学校組織の構造と機能に生徒指導体制を位置づけて理解する。(秋山)

第5回：学校経営から考える生徒指導：学校教育目標並びにそれに基づく年間指導計画といった長期的視野に立つ取り組みとしての生徒指導の在り方を理解する。(秋山)

第6回：基礎的生活習慣と規範意識へのアプローチ：全ての学校教育を根底で支える基礎的生活習慣の確立と規範意識の醸成が生徒指導にどのような意義をもつのかを理解する。(秋山)

第7回：自己有用感の育成：社会的関係の中で育まれる自己有用感の意義と生徒指導上における具体的な方法について理解する。(秋山)

第8回：不登校：不登校問題の歴史的経緯と現在の具体的な取り組みのあり方について理解する。(秋山)

第9回：いじめ：学校現場におけるいじめ問題の現状と課題を知るとともに、具体的な取り組みについて理解する。また、いじめ防止対策推進法などより包括的な取り組みについて理解する。(秋山)

第10回：暴力行為：対教師・生徒間・対人暴力、器物損壊の問題と対応について理解する。(秋山)

第11回：今日的課題と生徒指導：ソーシャルメディアの発達が子ども達に与える影響、児童虐待など家庭環境に起因する問題など深刻化する課題について理解する。(秋山)

第12回：生徒指導と校則・懲戒・体罰：校則・懲戒・体罰の法令上における位置づけ並びに学校現場での適切な生徒指導の在り方について理解する。(秋山)

第13回：進路指導・キャリア教育の意義：教育課程における位置付けを理解し、教育活動全体を通じた取り組みについて事例を通じて理解する。また学校組織の体制の在り方と家庭その他の関係機関との連携について理解する。(藤)

第14回：ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育：主として全体指導の観点から、職業による体験的活動を中心とする指導をカリキュラム・マネジメントの観点から理解する。(藤)

第15回：カウンセリングとしての進路指導・キャリア教育：主として個別指導の観点から、生涯を通じたキャリア形成を促すキャリア・カウンセリングの在り方について理解する。また、ポートフォリオの活用について事例を通じて理解する。(藤)

定期試験

テキスト

文部科学省「生徒指導提要」(令和4年12月)

参考書・参考資料等

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ 発達障害と生徒指導」

教職に関する科目：シラバス

学生に対する評価

定期試験の評価（100%）。

授業科目名： 教育相談（カウンセリングを含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大黒 剛
			担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ (1) 教育相談に関する知識やコミュニケーションの理解を深め、カウンセリングの技術を使うことが出来る。 (2) 子どもに関する社会問題について理解を深めることが出来る。 (3) 子どもの問題に対して具体的な援助計画を立てられるようになる。			
授業の概要 教育相談はカウンセリングの技術や知見を応用しながら、学校関係者が児童生徒に行う実践的なコミュニケーションである。その対象は不適応や問題行動を示す児童生徒のみではなく、学級のすべての児童生徒が対象となる。本科目では、コミュニケーションの原理やカウンセリングの基礎知識を学びながら、現在の子どもの関係するさまざまな社会問題についての理解とその対応について考える。			
授業計画 第1回:学校教育相談とは:現在、子どもとその保護者、また現場の教師はどのようなことで悩んでいるのか、学校教育相談の現状について解説する。 第2回:教育相談とコミュニケーションの原理:教育相談の基礎的な理論を理解し、実戦で必要となる人と人の言葉のやり取りと、その受け答えに関する理論と展開を解説する。 第3回:カウンセリングの基礎知識①:カウンセリングの基本理論とカウンセリングマインドについて解説する。 第4回:カウンセリングの基礎知識②:不登校やいじめ問題を例題として、幼児や児童が発する危険シグナルを捉え、それに伴い教員が行う受動的な聞き方と能動的な聴き方の違いについて解説する。 第5回:不登校、ニート、引きこもりの理解:不登校の原因とその対応、および自己実現の心理学について解説する。 第6回:いじめの理解と対応:いじめの定義、現状とその対応、および、いじめが及ぼす心理的影響について解説する。 第7回:非行少年の理解と対応:非行少年の現状とその対応、および、非行少年少女とその親子関係について解説する 第8回:児童虐待①:児童虐待の現状と定義について解説する。 第9回:児童虐待②:児童虐待が子どもに及ぼす心理的影響および具体的な援助方法について解説する。 第10回:子どもの発達に即した対応①:乳児期、幼児期、児童期の親子関係、特に愛着関係の形成、フロイト、エリクソンの発達段階について理解をし、その発達段階に応じた対応について解説する。 第11回:子どもの発達に即した対応②:児童期、青年期の心理発達の特長と、友人関係、教員との関係			

等について理解を促し、その対応について解説する。

第12回:心の傷と心の病①:特にいじめや親子関係で心的外傷後ストレス障害や急性ストレス障害(心の傷と心の病)について、その基本的理論について解説する。

第13回:心の傷と心の病②特に子どものうつ病に着目して、子どものうつ病の発生原因のメカニズムおよび、その対応について解説する。

第14回:教育相談における社会的資源の活用:スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、および地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について説明する。

第15回:まとめ:これからの教育相談の意義と児童生徒に対する役割について解説する。

定期試験

テキスト

一丸 藤太郎・菅野 信夫 著 『学校教育相談(MINERVA 教育講座)』 ミネルヴァ書房 2002年。

参考書・参考資料等

高野 清純・西 君子・國分 康孝 著『学校教育相談カウンセリング辞典』 教育出版 1994年

学生に対する評価

定期試験の評価(100%)。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (小・中・高)	単位数：2単位	担当教員名：塚本 美紀、西原 真弓、太田 かおり、杉谷 修一			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 10人 演習の際は1グループあたり5～6名に分かれて授業を行う。					
教員の連携・協力体制 現場の教員を外部講師として招き、連携して学生の力量向上を図る。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 教職課程での学びを再点検し、自らに残された課題を探ることができる。 2. 教師として求められる資格・能力を具体的に学校場面に結び付けて理解し伸ばすことができる。 3. 信頼される学校づくりに貢献する教師の在り方を理解し具体的な方策を探ることができる。 4. 児童・生徒理解に基づいた教育活動を展開することができる。 5. 授業の計画、実施、評価に関する知識と実践力を伸ばすことができる。 6. 教師として自律的な成長に必要なリソースを探り活用することができる。					
授業の概要 この演習は、「教職課程履修カルテ」を用いながら、これまでの教職課程での学びと教育実習を振り返りながら、教師としての使命感、保護者や地域社会への責任、信頼される学校づくりなどの課題について総合的な理解を深めることで実践力をさらに伸ばす機会となることを意図している。また、教育対象である児童・生徒理解の方法や教師としての専門性を高めるためのリソース活用法などの各テーマについて、グループ学習や討議・発表などの演習形式に沿って学習し教師としての実践的スキルと資質・能力の向上を目指す。					

授業計画

第1回：イントロダクション（全員）

これまでの教職課程の学習について振り返り、各自の残された課題を確認する。

第2回：児童・生徒理解の方法（太田）

児童・生徒を理解するための方法について演習を通して理解する。

第3回：家庭や地域、関係機関との連携（外部講師、太田、塚本、西原）

保護者・地域に対する教師の責任とそれを果たす具体的方策について学ぶ。

第4回：教師にとっての使命感（杉谷）

教師の使命感について各自の考えを整理し、グループで討議を行うことを通じ、教師の使命感を涵養する。

第5回：小学生に対する模擬授業（1）（西原）

各自の課題についてグループ間で討議し、実践力向上に向けた演習を行う。

第6回：中学生に対する模擬授業（2）（西原）

授業計画・実施に関する自分の課題に基づき、実践力向上に向けた演習を行う。

第7回：中学生に対する模擬授業（3）（西原）

評価に関する自分の課題に基づき、実践力向上に向けた演習を行う。

第8回：高校生に対する模擬授業（1）（塚本）

各自の課題についてグループ間で討議し、実践力向上に向けた演習を行う。

第9回：高校生に対する模擬授業（2）（塚本）

授業計画・実施・評価に関する自分の課題に基づき、実践力向上に向けた演習を行う。

第10回：教育実習の再点検（西原）

「教職課程履修カルテ」を用いて、教育実習に参加して明らかになった課題について各グループ内で討議し課題を明確にする。

第11回：児童・生徒との関係づくり（太田）

児童・生徒との信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術について学ぶ。

第12回：現代社会におけるICTの活用と教育における導入（太田）

近年ますます重要な課題となっている学校現場におけるICTの活用について学ぶ。

第13回：リソースの活用法（塚本）

教師に求められる専門性を高めるためのリソース活用法について学ぶ。

第14回：資質能力の向上に向けた課題の確認（全員）

教師として求められる資質能力の向上を図るうえで取り組むべき各自の課題について整理する。

第15回：まとめ（全員）

第14回の演習に基づき、グループ討議を通じて資質能力への具体的な取り組みを明らかにし、発表する。

定期試験は実施しない

テキスト

教員が適宜に資料を配布する。

参考書・参考資料等

履修カルテ、教育実習記録簿、その他、授業の中で具体的に指示する。

学生に対する評価

レポート：60%、発表：20%、授業での積極性や貢献度：20%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。